



Hiroshima sailing federation

公益財団法人 広島県セーリング連盟

70年の航跡

太陽と風と未来への羅針盤



公益財団法人 広島県セーリング連盟
70年の航跡

Hiroshima sailing federation
The 70th anniversary since 1949





公益財団法人 広島県セーリング連盟

創立70周年記念誌

70年の航跡

広島県セーリング連盟 活動理念

1. 海という自然を、こよなく愛する人々の集まりである。
2. ヨットを通じて、人々に幸福をもたらす集まりである。
3. 会員諸氏が、互いに切磋琢磨して育っていく集まりである。

目次

■ ご挨拶	公益財団法人 広島県セーリング連盟 会長 山根恒弘	04
■ ご祝辞	公益財団法人 日本セーリング連盟 会長 河野博文	06
	広島県知事 湯崎英彦	07
	広島市長 松井一實	08
■ 写真集 “あの日あの時”		09
■ 年譜		21
■ 70年の羅針盤	Part1 座談会	31
	Part2 航跡をたどって	32
	Part3 普及活動	40
	Part4 広島県内のセーリング情報	56
■ 2018ハンザクラスワールド&インターナショナルチャンピオンシップ広島大会	63	
	Memorial Graph	64
	座談会	72
■ 80年ビジョン		79
■ 資料編		85
■ Topics	わたしたちのベース、広島鏡音マリーナを紹介します。 救助艇「安芸」の「小富士」怪走す!? 誰もが楽しめる小型ヨット、ハンザ レッド・ハンザ1号	20 30 78 84

ご挨拶

先輩諸氏の熱心な支援で充実した課外教育がなされました。

ハンザヨットでの障がい者への普及の取り組みが、昨年のアジア初の世界大会の開催となり、24カ国191人の選手、重度の障がい者もノーハンディーストで明るく笑顔で命輝かせました。

海洋先進国ではインクルーシブ社会（共生社会）の実現・発展の目的でハンザヨットを使ったこの国際大会を開催して居り、海運用の帆船をヨットにしてスポーツ文化にまで高め、海の遊びを日常生活にまで溶け込ませていることを知り、日本は一同遅れることに気づかされました。



公益財団法人 広島県セーリング連盟
会長 山根 恒弘

創立70周年を迎えて

公益財団法人広島県セーリング連盟が創立70周年を迎えました。

創立以来今まで、会員の皆様をはじめ多くの方々に、ご支援ご協力を頂きました。心から厚く感謝申し上げます。

ヨットはオランダ語の「Jacht」に由来し17世紀のアムステルダムの商人たちが先駆をつけ、18、19世紀にイギリスがこのスポーツの中心になりyachtと言う英語が定着したと言われています。アメリカズカップは1851年近代オリンピックより45年も早くから始まり、日本初のヨットレースは1875年(明治7)横浜で行われ、日本ヨット協会は1932年(昭和7)に発足しました。

中四国地方を除く各地域にヨット協会が出来て来ましたが、広島県ヨット連盟は、遅れて昭和24年9月25日、第6回広島国体(昭和26)に向けて誕生しました。そのころ、広島湾には10艇ほどヨットが浮いていただけでした。瀬戸内海は漁業や海運が盛んで、船遊び・ヨットの普及が遅れたのかしれません。

昭和37年から連盟の理事長であり広島大学ヨット部監督の渡辺文人氏が、はるか彼方の夢インター・カッレジ優勝を目指して、強烈なリーダーシップで広島湾のヨットスポーツの普及と強化を図っていきます。昭和46年にローカル国立大学で、資金も、船も、経験も何もない部が日本一になり、広島が全国に認知されます。

昭和47年松田耕平氏が会長に就任され、昭和63年に財団法人になります。組織・財政が強化され、またアジア大会に向けて観音ヨットハーバーが建設され、選手500人、愛好家を含め競技人口は3000人余りになり、東京・神奈川に次いで全国3番目になりました。

平成時代は学生スポーツに多くを頼り、高度成長経済の中で発展した底の浅さもあり、バブル経済崩壊や大学移転等の影響を受けて会員の減少がありました。ヨットを愛する会員によつて着実な活動が続けられました。

OP級100艇を活用して、セーリングスクールの継続的取り組みでジュニア選手がヨーロッパ選手権へ、レーザーラジアル級で国際大会へ出場するセーラーが多く出ました。大学ヨット部も

令和の時代の私たちの目標・夢がはっきりしてきました。

私たちは、多くの人にセーリング・リクリエーションとセーリング・スポーツとの両輪を回して、シーマンシップの教育と普及で社会に貢献する公益的役割を担っています。

未知の海に船出し、安全・確実・迅速に帰港する為に生まれたシーマンシップは「自然とのコミュニケーション力」と「片手は船(他人)の為 片手は自分の為に使える」のスピリットとスキルの習得・養成です。スポーツマンシップより古くからあり、それには帆船が不可欠とされています。

60年前の学生は3月の冷たい海に、木の船体で縄のセールのA級ディンギーにライフジャケットも着付けてセーターを着こんで乗っていました。ヨットは風速以上、風速の3倍以上の速度を出す、数百メーター先にある風の高レベルの予測でより早く、より効率よく走るヨットで競っています。

昭和、平成、そして令和、70年間に世の中は、一変しました。新しい時代を迎える、その変化のスピードはますます加速していくと思えますが、人間の創意と経験が生んだ「自然と共生するシーマンシップ」の大切さは変わりません。

海洋先進国であるオーストラリアのクリス・ミッセル氏は「Sailing for everyone」のコンセプトのもとにハンザヨットを開発しました。

美しい島々が浮かぶ風光明媚な瀬戸内海を、世界の人々が、老若男女、障がい者も、ヨットで遊び、楽しむ、アカブカ浮いて楽しむ、「Sailing to everyone」のインクルーシブ(共生社会)の海にすることが私たちに求められています。

私たち連盟には、70年の歴史のなかで養われた、海の知識、レース・大会運営等々、障がい者対応もできる経験豊富なヨットを愛する多くの人材があります。OP艇、ハンザ艇と初心者も障がい者も乗れるヨット、サポート艇も揃っています。

創立以来、多くの方々のお蔭で、今この新たなセーリング時代を迎えていたことに感謝し、「勇猛果敢に挑戦するシーマンシップ」で令和の海の時代を切り開き次の世代へと引き渡していく、その役割を皆様と共に果たしていきたいと願っています。

Greeting

ご祝辞

ご祝辞



公益財団法人 日本セーリング連盟
会長 河野 博文

広島県セーリング連盟創立70周年、誠におめでとうございます。

瀬戸内の海は、古来より多くの船が行き来していく、国内はもとよりアジア各地とも交流する航路でもあるなど、日本の海上交通・海上物流の要衝です。その瀬戸内の広島の海で、戦後まもなくヨットの活動が始まりました。そして、開催が決まった広島国体に向けて昭和24年に広島県ヨット連盟を発足させたと伺っております。

広島県ヨット連盟は、発足直後から全国の様々な大会に選手を送るとともに、多くのレースを開催して、活発な活動を行ってござりました。

わざか2年後の昭和26年には広島国体を成功裡に終わらせただけでなくインターハイインカレ等次々と大会を開催するとともに、昭和28年の国体では2つのクラスで優勝するなど広島の選手は全国各地の大会で次々と優秀な成績をおさめてござりました。

また、近年では全国に先駆けてチームレースを活発に開催するなど、国内のセーリング界でも進取の気性に富んだ活動をされています。

特に障害者セーリング活動には尽力され、新たな共生社会のさきがけとして、インクルーシブ・セーリングの普及にも務められております。

その成果は、昨年の2018年ハンザ級世界選手権の開催、それに合わせてWorld Sailingが開催したパラリンピック・デベロップメント・プログラムの成功として、世界中から認められております。

このようにして貴連盟は、日本のセーリング界でも伝統とともに新たな創造を進めてござらました。この間の関係者の皆さまのご努力に深く敬意を表します。

これからも、日本のセーリング界の先頭を行く活動を活発に進めて、世界の注目する大会の成功や、世界に飛躍する優秀なセーラー・やレース役員が輩出されることを期待しています。

広島県セーリング連盟の益々の御発展と御活躍を祈念しております。



広島県知事
湯崎 英彦

公益財団法人広島県セーリング連盟が創立70周年を迎えたことを心からお慶び申し上げます。

貴連盟におかれましては、昭和24年の創立以来、長きにわたり、体験乗船やヨットスクールを通じて、本県のセーリングスポーツの普及、選手の育成・強化に大きく貢献してござりました。

セーリングは、年齢や性別にかかわりなく誰もが楽しむことができるスポーツであり、2007年に発足した「セイラビリティ・ヒロシマ あびの会」では、ユニバーサルデザインのヨット「アクセスティング」の体験教室を通じて、障害のある方の社会進出の手助けや心身の活力を養うとともに、ボランティア活動の場を広げ、ヨットを通じた社会貢献を目指した活動をされています。

さらに、貴連盟の御尽力により、昨年10月には、アジアで初めて、広島県において、小型ヨット「ハンザ」の世界大会、「2018ハンザフュラワールド&インタナショナルチャンピオンシップ広島大会」が開催されました。この大会には、24か国の選手が参加され、運営にあたっては、多くのスタッフやボランティアに支えていただきました。

ハンザクラスは、障害のある人との人がともにレースに参加することができると、多くの支援者やボランティアが集い、共にヨットを楽しむその姿は、本県が目指す、「すべての県民が障害の有無にかかわらず、広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かったと心から思え、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現」そのものであると考えております。

今後とも、誰もが、いつでも、セーリングを楽しむことができる、国際的なセーリングの拠点づくりに、より一層の御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、公益財団法人広島県セーリング連盟の、今後のますますの御発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

Congratulations

Congratulations



広島市長
松井一寛

公益財団法人広島県セーリング連盟がこの度、記念すべき創立70周年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

貴連盟は、戦後間もない昭和24年、昭和26年に広島で開催される、戦後復興の象徴となる国民体育大会を目指して、広島県ヨット連盟として発足し、その後、昭和63年に財団法人化が成され、平成24年には公益財団法人広島県セーリング連盟に移行し、順次、組織基盤の強化が図られたと伺っています。その間、長きにわたり、セーリングスポーツ・レクリエーション活動の普及と振興に大きな貢献をされています。貴連盟の運営をけん引してござれた歴代会長を始め、関係者の皆様の熱意と不斷の御努力に深く敬意を表します。

本市では、全ての市民が自分のライフスタイルに応じたスポーツに関わり、生きがいを感じることができるよう、市民のスポーツ・レクリエーション活動の促進に取り組んでいます。

そうした中、貴連盟におかれましては、昨年、アジアで初めて開催された障害者、健常者が共に楽しむことができるハンザプラスの国際ヨット大会「2018ハンザクラスワールド&インターナショナルチャンピオンシップ」を大きな成功に導かれました。その成果を受け、今後も毎年開催が予定されるハンザクラスの「ひろしまピースカップ(国際親善交流大会)」が、世界中から誰でも参加できる国際的な障害者のスポーツ大会として定着することを期待しています。

また、シニア世代の選手育成など競技力の向上はもとより、年齢、性別、障害の有無を問わずヨットや海に興味のある方の体験ヨット教室などを通し、セーリングスポーツを、瀬戸内海に囲まれた広島ならではの素晴らしい環境の下で、誰もが楽しめる生涯スポーツとして、幅広い世代に浸透させていただきたいと思います。終わりに、公益財団法人広島県セーリング連盟のますますの御発展と関係者の皆様の御活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

公益財団法人 広島県セーリング連盟

70年の航跡

写真集

あの日あの時



創立～1980年代



三重国体で皇后杯獲得メンバー (1975年9月)



吳みなと祭り (1972年)



海上保安大学にてOP艇「やまと・なでしこ」進水式 (1971年7月28日)



全日本学生ヨット選手権大会で広島大学が総合3位 (1963年)



広島県ヨットクラブの活動 (1972年)



湖三・笠海郡ヨットーフの第2回記念大会の開会式
海上自衛隊鹿屋隊による入場行進 (1974年5月18・19日)



第16回みどり祭りヨットレースの模様 (1973年9月29日)



第24回瀬戸内海横断ヨット競技 (1978年5月27・28日)



広島県ヨット・フェスティバル (1989年8月15・16日)



本川河岸に並んだOP艇 (1988年4月)



OP艇ヨット自作の様子



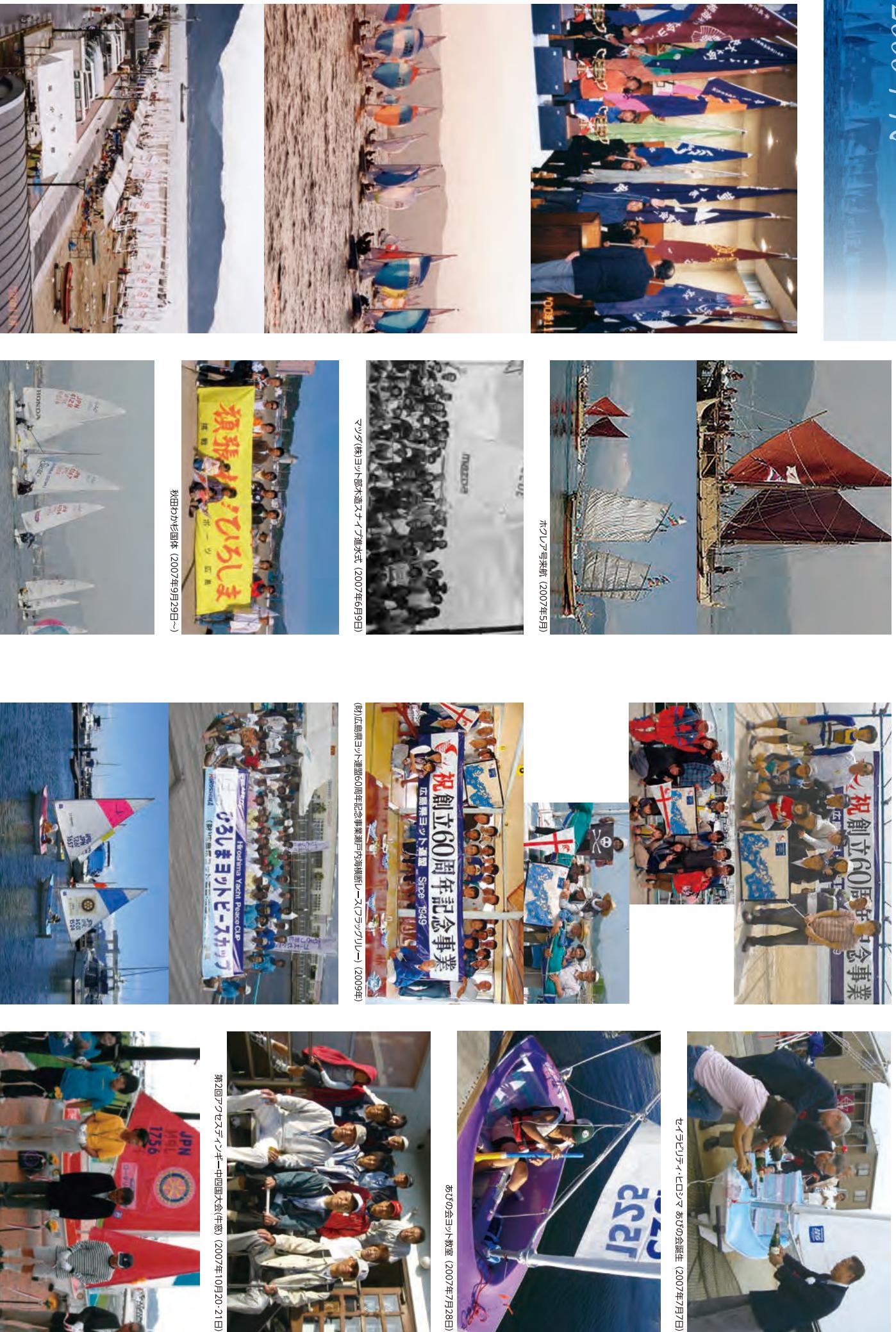
救助艇「安芸」の小富士進水式 (1979年3月)



第12回アジア競技大会 広島1994
1994年10月



ひろしま国体開催 1996年9月
(吳市阿賀マリノボリス地区マリーナ)



2010年～

写真集 あの日あの時



2010年～



リバティ進水式&あびの会感謝祭（2016年12月17日）



オブティミス級アジア選手権カタールドーハに出席した選手たち（2015年10月）



競音マリーナで開催された第31回全日本OP級チームース選手権（2015年9月19～21日）



SKUD 18の贈呈式・進呈式&広島信用金庫杯第10回ひろしまピースカップ（2015年9月25日）



広島信用金庫杯第10回ひろしまピースカップ&国際大会（2017年10月14～15日）



救助艇・安芸の小富士ロープ完成（2018年8月27日）



TOMOディンガーゲラッタ（福山・瀬の浦）（2018年6月24日）



施設改修（建物施設・トイレ等）（2018年9月3日）



セーリングシミュレーター安全祈願祭（競音マリーナ）（2017年12月16日）



恒例の嚴島神社初詣での鳥居くぐり（2019年1月6日）

Topics

わたしたちのベース、
広島観音マリーナを紹介します。

広島県セーリング連盟の本拠地となる広島観音マリーナは、広島デルタの南端、旧広島空港のある西区観音新町に位置します。都心から車でわずか20分ほどの便利なロケーション。目の前に安芸の小富士といわれる似島や江田島、宮島など多くの島々が広がり、瀬戸内海ならではの多島美を楽しめます。また、隣接してショッピングモール「マリーナホップ」やレストラン、結婚式場などが各施設が集まる一大レジャーゾーンを形成。ビーチなども整備され、週末ともなると家族連れやカップルなどでにぎわいます。



最先端のマリーナ施設

観音マリーナは、最先端のマリーナ管理システムや24時間利用できる海上係留施設、またマリーナステイそのものを満喫できる充実したソフトや設備に加え、多彩なサービスでマリンレジャーのさまざまな場面に利用できます。

70年の航跡

公益財団法人 広島県セーリング連盟

年
並



History

History

西暦(和暦)	出来事	西暦(和暦)	出来事
	社会の出来事		社会の出来事
1948 (昭和23年)	広島湾ヨットクラブ設立(瀬戸内海汽船が福岡国体使用ナイフ3隻を払い下げ受ける) 衆々園海上ヨットクラブ設立(竹村悟氏が理事長、数隻のヨット所有) 県保育体育課長から団体広島開催決定でヨット競技について森田愛之氏相談を受ける	9月21日	第6回国体ヨットレース開催(於 包ヶ浦)
1949 (昭和24年)	7月11日 広島県ヨット連盟設立の為の第1回準備委員会開催 広島県ヨット連盟第2回委員会開催(於 濱戸内海汽船) 広島大学ヨット部代表員15名 代表者 菅田泰介	1952 (昭和27年)	1. 国体使用済ヨット競売入札公告 (入札価格スナイフ63,651円、ティンギー59,898円) 高体連シートレーク開催(於 字品)
9月25日	広島県ヨット連盟設立祝成式	5月31日	5月31日 広島大学設置
9月26日	広島県ヨット連盟第3回委員会開催(於 濱戸内海汽船)	8月6日	8月6日 広島平和記念都市建設法が公布
9月	広島大学ヨット部第1回委員会開催(於 濱戸内海汽船)		
10月24日	広島県ヨット連盟設立祝成式 第1回国体ヨット競技に出場(於 横浜 選手:鶴木、青木、三上、高山) 「しぶき」広島湾にて競艇 艇体の損傷は軽微だったが競艇品を流出	1953 (昭和28年)	1. 第9回国体(北海道)で一般スナイフ級優勝、高校スナイフ級優勝、 高校A級デインギー2位
11月4日		1954 (昭和29年)	1. 第9回国体(北海道)で実業団スナイフクラス2位 フェニックス号世界一周へ出港
1950 (昭和25年)	3月10日 第6回国体用試作艇(S4、A8)県より発注 4月21日 広島大学ヨット部、広島県ヨット連盟に正式加盟申請 4月21日 九州ヨット協会、広島支部として日本ヨット協会に加盟	9月4日	1. 第1回国体(神奈川県)で一般手舟A級デインギー2位
4月20日	広島大学ヨット部、県ヨット連盟正式加盟。加盟金納入	6月25日	6月25日 第1回国体(神奈川県)で一般手舟A級デインギー2位
7月3日	広島県ヨット連盟総会於 広島大学皆美分校	1955 (昭和30年)	1. 第1回国体(神奈川県)で実業団スナイフクラス2位
7月3日	審判長森田愛之、副審判長高橋伸太郎他 参加者20名	9月	1. 第1回国体(神奈川県)で一般手舟A級デインギー2位
7月18日	日本ヨット協会 小沢吉大競理事長、山本理事、第6回国体準備規則のため来広	1956 (昭和31年)	1. 第1回国体(神奈川県)で一般手舟A級デインギー2位
7月	戸田孝昭氏、造船指導のため来広	1957 (昭和32年)	1. 第1回国体(神奈川県)で一般手舟A級デインギー2位
7月20日	国体用ヨット試作艇(字品・広島灣造船)完成。字品より包ヶ浦に廻航	1958 (昭和33年)	1. 第1回国体(神奈川県)で一般手舟A級デインギー2位
九州大学ヨット部当時、土屋直人氏参加	九州大学ヨット部、広島医大ヨット部	1959 (昭和34年)	1. 第1回国体(神奈川県)で一般手舟A級デインギー2位
8月1日	国体用試作ヨットA級デインギー4隻を包ヶ浦に廻航	7月30日	7月30日 第1回国体(神奈川県)で一般手舟A級デインギー2位
8月6日	広島県学生選手権(於 包ヶ浦)	1960 (昭和35年)	1. 第1回国体(神奈川県)で一般手舟A級デインギー2位
8月13日	イシダーカッソース(於 包ヶ浦)	7月31日	7月31日 第1回国体(神奈川県)で一般手舟A級デインギー2位
8月	第1回国体水球選手権大会(於 包ヶ浦)	8月1日	8月1日 広島平和記念資料館開館
8月30日		8月24日	8月24日 広島平和記念資料館開館
9月21日	第5回国体広島県予選(於 包ヶ浦)	7月24日	7月24日 旧広島市民球場完成
9月28日	第5回国体ヨット競技出場(於 愛知県半田市、成績 総合8位、天皇杯得点6.1点) A級デインギー2隻、字品より包ヶ浦に廻航(医大ヨット部)	12月23日	12月23日 東京タワー完成
10月8日	第1回国学生選手権大会(於 字品)	4月10日	4月10日 皇太子ご成婚
11月3日	吳市民体育大会ヨットレース開催(於 天恋町天崎沖、スナイブ6、デインギー8隻)	1961 (昭和36年)	1. 第2代会長・岩崎誠一氏(三菱広島造船所長)就任
11月5日	広島子供博にヨットを展示、相生橋下にデモンストレーション	9月15日	9月15日 広島空港開港
11月28日	宇品別世界の浜を備用臨時ハーバーとする。浴場跡を改造し艇庫とする	10月22日	10月22日 キューヘリ機
12月3日	瀬戸内海汽船 網本氏、地主の幸山氏、船大工の今村氏にお世話による	7月16日	7月16日 名神高速道路 (日本初の高速道)完成
12月5日	広島市民体育大会ヨットレース(於 字品)	10月1日	10月1日 東海道新幹線開通
1951 (昭和26年)	中国学生ヨット連盟第1回総会(於 明治分校)	10月10日	10月10日 東京 オリンピック開催
1月9日	広島大学夏期合宿(於 包ヶ浦) 岐阜大学、松山商科大学合同合宿	1964 (昭和41年)	1. 第21回国体(大分県)で一般男子Aファイン3位、一般女子スナイフ級2位
1月9日	固体用A級デインギー2隻(於 包ヶ浦)	1967 (昭和42年)	1. 第5代会長・砂原格氏就任 福山地区支部結成
1月9日	インター・カルチャージュ国予選(於 包ヶ浦、1位広大、2位岡大)	9月	9月 第22回国体(埼玉県)で一般男子A級優勝
1月9日	中国学生ヨット連盟第1回総会(於 明治分校)	8月5日	8月5日 原爆ドーム 保存工事が完了
1月9日	広島大学夏期合宿(於 包ヶ浦) 岐阜大学、松山商科大学合同合宿	1968 (昭和43年)	1. 第24回国体(長崎県)で高校男子スナイフ級2位
1月9日	固体用A級デインギー2隻(於 包ヶ浦)	1969 (昭和44年)	1. 第24回国体(長崎県)で高校男子スナイフ級2位
1月9日	中国一周レース第1回(於 包ヶ浦)	7月20日	7月20日 アポロ11号月面着陸
1月9日	第6回国体広島県予選(於 包ヶ浦)		

1948~69

History

西暦(和暦)	出来事	西暦(和暦)	出来事	西暦(和暦)	出来事
1970年 8月15日 (昭和45)年 9月	広島県子供ヨットクラブ発足	1981年 3月4日 (昭和56)年 9月	大阪万葉開幕	1981年 2月25日 (昭和56)年 9月	ローマ法王来広
全日本学生ヨット選手権 広島経済大学スナイプ級2位	第25回国体(岩手県宮古市)で広島県女子チーム優勝	1982年 3月21日 (昭和57)年 9月	全日本少年少女オーナンヨット大会(宮島)	1982年 10月1日 (昭和57)年 9月	コンバクトディスク(CD)発売
全日本実業団選手権大会 三菱重工広島2位	全日本インカレ(常滑)で広島大学優勝	1983年 3月7日 (昭和58)年 9月	第37回国体(鳥取県くびき国体)の競技運営応援(役員20名)	1983年 4月15日 (昭和58)年 9月	東京ディズニーランド開園
1971年 1月7日 (昭和46)年 1月7日	全日本女子ヨット選手権で広島大学優勝	1984年 3月8日 (昭和59)年 9月	第1回河上徹太郎杯開催(岩国～宮島口)	1984年 1月8日 (昭和59)年 9月	セイルボート連盟並びに福山少年ヨットクラブの連盟加入
1972年 1月7日 (昭和47)年 1月7日	全日本K16級選手権で福山ヨットクラブ(石井兄弟組)優勝	1985年 3月9日 (昭和60)年 9月	福山ヨットクラブ創立20周年	1985年 1月8日 (昭和60)年 9月	全日本実業団選手権大会(境港市)で三菱・広島優勝
1972年 1月23日 (昭和47)年 1月23日	第6代会長・松田耕平氏(東洋工業社長就任)	1986年 3月10日 (昭和61)年 9月	鳥取県子供ヨットクラブ15周年記念祝賀会	1986年 1月9日 (昭和61)年 9月	福山ヨットクラブ創立20周年
選手登録50人で東京、神奈川に次いで3位となる	選手登録50人で東京、神奈川に次いで3位となる	1987年 3月11日 (昭和62)年 9月	広島県議会においてマリー・ナ着工が明言	1987年 3月11日 (昭和62)年 9月	鳥取県議会においてマリー・ナ着工が明言
広島県ヨット連盟会員懇親会開催会報創刊	第28回国体(千葉県)で一般男子スナイプ級2位	1988年 3月12日 (昭和63)年 9月	第10回全国少年少女ヨット大会 2人乗りOP級寺西猿田優勝	1988年 3月12日 (昭和63)年 9月	第10回全国少年少女ヨット大会 2人乗りOP級寺西猿田優勝
全日本K16級選手権で福山ヨットクラブ(石井兄弟組)連続優勝	第29回国体(茨城県)で高校男子スナイプ級2位	1989年 3月13日 (昭和64)年 9月	広島県議会においてマリー・ナ着工が明言	1989年 3月13日 (昭和64)年 9月	第10回全国少年少女ヨット大会 2人乗りOP級寺西猿田優勝
全国高校選手権大会 修道高校J級2位	西半球スナイプ級選手権大会(アレゼンチノ)広島大学しぶき会3位入賞	1990年 3月14日 (昭和65)年 9月	全日本実業団選手権大会で三菱・広島2位	1990年 3月14日 (昭和65)年 9月	第10回全国少年少女ヨット大会 2人乗りOP級寺西猿田優勝
全日本女子ヨット選手権大会開催(出島沖)で広島大学3連覇	第29回国体(茨城県)で高校男子スナイプ級2位	1991年 3月15日 (昭和66)年 9月	鳥取県議会においてマリー・ナ着工が明言	1991年 3月15日 (昭和66)年 9月	第10回全国少年少女ヨット大会 2人乗りOP級寺西猿田優勝
広島県ヨット駅伝大会開催(福山～因島・三原～呉・広島～大竹)	全日本インカレ 広島大学470級2位	1992年 3月16日 (昭和67)年 9月	第53回全日本学生ヨット選手権大会(広島)開催	1992年 3月16日 (昭和67)年 9月	第53回全日本学生ヨット選手権大会(広島)開催
西半球スナイプ級選手権大会(アレゼンチノ)広島大学しぶき会3位入賞	全日本K16級選手権で石井兄弟組3連覇	1993年 3月17日 (昭和68)年 9月	ヨット・スクールコーチ結団式(92名)	1993年 3月17日 (昭和68)年 9月	ヨット・スクールコーチ結団式(92名)
第29回国体(茨城県)で高校男子スナイプ級2位	広島大学しぶき会中国大学スポーツ賞受賞	1994年 3月18日 (昭和69)年 9月	TSSヨットユニアヨットスクール発足	1994年 3月18日 (昭和69)年 9月	TSSヨットユニアヨットスクール発足
全日本インカレ 広島大学470級2位	海難救助船 畑天・阿伏鬼2隻進水	1995年 3月19日 (昭和70)年 9月	ヨット・スクールコーチ結団式(92名)	1995年 3月19日 (昭和70)年 9月	ヨット・スクールコーチ結団式(92名)
広島県ヨット連盟創設25周年	広島県ヨット連盟創設25周年	1996年 3月20日 (昭和71)年 9月	第1回TSSヨットスクール発足	1996年 3月20日 (昭和71)年 9月	第1回TSSヨットスクール発足
1974年 8月13日 (昭和49)年 8月13日	全日本女子ヨット選手権大会開催(福山～因島・三原～呉・広島～大竹)	1997年 3月21日 (昭和72)年 9月	フェニックスヨットハーバー合宿所開設	1997年 3月21日 (昭和72)年 9月	フェニックスヨットハーバー合宿所開設
西半球スナイプ級選手権大会(アレゼンチノ)広島大学しぶき会3位入賞	第29回国体(茨城県)で高校男子スナイプ級2位	1998年 3月22日 (昭和73)年 9月	100席相生橋公園(岸より進水・元安川)を下る	1998年 3月22日 (昭和73)年 9月	100席相生橋公園(岸より進水・元安川)を下る
第29回国体(茨城県)で高校男子スナイプ級2位	全日本K16級選手権で石井兄弟組3連覇	1999年 3月23日 (昭和74)年 9月	TSSヨットユニアヨットスクール発足	1999年 3月23日 (昭和74)年 9月	TSSヨットユニアヨットスクール発足
全日本インカレ 広島大学470級2位	広島大学しぶき会中国大学スポーツ賞受賞	2000年 3月24日 (昭和75)年 9月	第1回TSSヨットスクール発足	2000年 3月24日 (昭和75)年 9月	第1回TSSヨットスクール発足
広島県ヨット連盟創設25周年	海難救助船 畑天・阿伏鬼2隻進水	2001年 3月25日 (昭和76)年 9月	100席相生橋公園(岸より進水・元安川)を下る	2001年 3月25日 (昭和76)年 9月	100席相生橋公園(岸より進水・元安川)を下る
1975年 8月13日 (昭和50)年 8月13日	岩田幸雄氏(日本ヨット協会功労賞受賞)	2002年 3月26日 (昭和77)年 9月	第1回TSSヨットスクール発足	2002年 3月26日 (昭和77)年 9月	第1回TSSヨットスクール発足
第1回国体(三重県)で皇后杯優勝 天皇杯2位	第1回国体(三重県)で皇后杯優勝 天皇杯2位	2003年 3月27日 (昭和78)年 9月	ヤマハ・マツチース中国選手権大会	2003年 3月27日 (昭和78)年 9月	ヤマハ・マツチース中国選手権大会
全日本学生選手権大会で広大470級2位	全日本学生選手権大会で広大470級2位	2004年 3月28日 (昭和79)年 9月	広島県ヨット連盟創立40周年	2004年 3月28日 (昭和79)年 9月	広島県ヨット連盟創立40周年
第1回芸術ヨットレー・ス岩国・中島・阿多田島・大竹	第1回芸術ヨットレー・ス岩国・中島・阿多田島・大竹	2005年 3月29日 (昭和80)年 9月	宮島町制100周年記念宮島七浦めぐりヨットオリエンテーション大会(99艇)	2005年 3月29日 (昭和80)年 9月	宮島町制100周年記念宮島七浦めぐりヨットオリエンテーション大会(99艇)
創立25周年記念式典(公会堂)	第3回国体(三重県)で皇后杯優勝	2006年 3月30日 (昭和81)年 9月	(平成2)年 9月	2006年 3月30日 (昭和81)年 9月	(平成2)年 9月
1976年 7月30日 (昭和51)年 7月30日	第1回全国少年少女ヨット大会開催(宮島口)	2007年 3月31日 (昭和82)年 9月	デスマーケトリナショナルヨット・クルー2名招聘	2007年 3月31日 (昭和82)年 9月	デスマーケトリナショナルヨット・クルー2名招聘
1977年 7月30日 (昭和52)年 7月30日	全日本実業団選手権大会(瀬戸内湖)で三菱重工広島優勝	2008年 3月1日 (昭和83)年 9月	鳥羽マッチレース・スンプロプレーム(田村治久他)優勝	2008年 3月1日 (昭和83)年 9月	鳥羽マッチレース・スンプロプレーム(田村治久他)優勝
1978年 7月30日 (昭和53)年 7月30日	全日本実業団選手権大会(大阪阪南淡輪)で三菱重工広島優勝	2009年 3月2日 (昭和84)年 9月	11月～4月 12月15日～12月29日	2009年 3月2日 (昭和84)年 9月	11月～4月 12月15日～12月29日
1979年 7月30日 (昭和54)年 7月30日	広島県ヨット連盟創立30周年	2010年 3月3日 (昭和85)年 9月	ジユニアヨットスクール井口漁港をベースに活動開始 <マリンマリン>(タカ)海難事故	2010年 3月3日 (昭和85)年 9月	ジユニアヨットスクール井口漁港をベースに活動開始 <マリンマリン>(タカ)海難事故
全日本学生選手権大会広島優勝(470級2位)	全日本学生選手権大会広島優勝(470級2位)	2011年 3月4日 (昭和86)年 9月	第47回国体(山形県)で成年男子スナイプ級2位	2011年 3月4日 (昭和86)年 9月	第47回国体(山形県)で成年男子スナイプ級2位
1980年 7月30日 (昭和55)年 7月30日	広島県ヨット連盟創立30周年	2012年 3月5日 (昭和87)年 9月	名誉会長・松田耕平氏就任	2012年 3月5日 (昭和87)年 9月	第7代会長・松田春政氏(TSS社長)就任
全日本実業団選手権大会(東洋工業3位)	全日本実業団選手権大会(東洋工業3位)	2013年 3月6日 (昭和88)年 9月	1月9日～9月 10月12日	2013年 3月6日 (昭和88)年 9月	1月9日～9月 10月12日
1980年 7月30日 (昭和55)年 7月30日	「ヨットハーバー建設の提言」発行	2014年 3月7日 (昭和89)年 9月	第7回アシニアヨット選手権大会開催(白ヶ浦)	2014年 3月7日 (昭和89)年 9月	第7回アシニアヨット選手権大会開催(白ヶ浦)
1980年 7月30日 (昭和55)年 7月30日	全日本実業団選手権大会・東洋工業3位	2015年 3月8日 (昭和90)年 9月	5月15日 10月29日	2015年 3月8日 (昭和90)年 9月	5月15日 10月29日
1980年 7月30日 (昭和55)年 7月30日	救助船「安芸」の小富士	2016年 3月9日 (昭和91)年 9月	新広島空港 (三原市本郷)開港	2016年 3月9日 (昭和91)年 9月	新広島空港 (三原市本郷)開港

History

西暦(和暦)	出来事	西暦(和暦)	出来事
西暦(和暦)	社会の出来事	西暦(和暦)	社会の出来事
1 9 9 4 (平成6年) 9月 10月~1日	副会長に渡辺文人氏就任 専務理事に鷲尾潔氏就任 第19回国体(愛知県・海陽)へ役員派遣 第12回アジア競技大会開催 同大会にてエンターブライス級(前田・後藤組)優勝	10月2日 第12回アジア競技大会広島開催	5月23日 濱口内海横断ヨットレーーが第50回記念大会を迎える 9月7日 大型台風18号により観音マリーナでも大きな被害を蒙る 9月6~20 第31回レーザー級全日本選手権大会を観音沖で開催
1 9 9 5 9月 (平成7年) 9月9~10日 10月~10日	第50回国体(福島県・いわき)へ役員派遣 第50回国体マヌアイズ級(前田・後藤組)優勝 同大会にてエンターブライス級(前田・後藤組)優勝	10月17日 阪神・淡路大震災	9月15日 広島県ヨット連盟第9代会長に山根恒弘氏就任 専務理事に赤羽根慶仁氏就任 「デインギー選手がワールダー東院」 「デインギー選手がクリーダー東院」
1 9 9 6 9月 (平成8年) 9月26~30日 9月26~1日	全国高等学校選手権大会(吉泊・新潟)優勝 全国J1級選手権大会(吉泊・新潟)優勝 第5回国体ひろしま国体開催ヨット部競技(阿波丸)優勝 同大会で成人女子シーソル(マリボリ)地区マーナ	1月17日 第1回ひろしま男子駅伝開催	2月1日 第1回ひろしま男子駅伝開催 9月8日 ひろしま国体開催
1 9 9 7 4月25日 (平成9年) 1月9~8月 (平成10年)	全日本OP級ヨット選手権大会(蒲郡)にて TSSジュニアヨットスクールから日本チャンピオン誕生 広島観音マリーナオーパン 第13回(海)の祭典を広島県にて開催(インギヨットース主催) 渡辺文人副会長文部大臣表敬受賞	1月21日 第1回ひろしま男子駅伝開催	2月1日 第1回ひろしま男子駅伝開催 9月8日 ひろしま国体開催
1 9 9 9 4月1日 (平成11年) 6月1~3日	(第)日本セーリングギヤード研修機関開所 新艇重セーリングビックリ帆導入(平成13年) しまなみ海道99しまなみみカッピヨットレース大会	1月25日 脚爆だら、嚴島神社が世界遺産に登録	2月1日 長野冬季オリンピック開催
2 0 0 0 4月9日 (平成12年)	観音マリーナディンギー研修機関開所 新艇重セーリングビックリ帆導入(平成13年) 第46回全日本実業ヨット選手権大会(宮城県名取市)にて三菱重工広島がS級優勝 第65回全国学生ヨット選手権大会(安芸高田町・ベイサイドビーチ)23大学138艇 安芸南高校ヨット部のコット3艇曳舟中、遊漁船が衝突し重大事故発生 11月19日 (助)広島県ヨット連盟創立50周年記念式典開催(吉川一郎)	2月5日 脚爆だら、嚴島神社が世界遺産に登録	2月7日 長野冬季オリンピック開催
2 0 0 1 (平成13年) 12月19日	県連とSAF外洋内外海支部との事務レベル初会合 (事業範囲等について協議開始) (助)広島県ヨット連盟第8代会長に渡辺文人氏就任	2月9日 第1回ひろしまヨットビースカップ開催	2月9日 第1回ひろしまヨットビースカップ開催
2 0 0 2 4月 (平成14年)	不島元節理事が勲四等瑞宝章受章	3月24日 去予地震発生	3月7日 アクセスディンギー競艇(セイリラビリティ・ヒロシマ あびの会)発足
2 0 0 3 (平成15年) 7月25日 ~8月1日	アメリカスカップ2003優勝艇「アリンギース・イス・ラッセル・クーツ」来広講演会開催 レーザー・ラジアル級世界選手権大会2003(イタリア)に田村愛子選手、前田博之選手が出席	8月10日 広島はつかいのう大橋開通	7月26~27日 マツダ(株)親睦会セヨット部創部50周年記念式典開催
2 0 0 4 5月2~4日 (平成16年)	JSAF以外洋内外海支部で全日本ミドルボート選手権が観音沖で開催 「アマルフィ」チームが優勝	9月11日 アメリカ同時多発テロ事件	9月8日 日本財团助成事業セーリング体験教室を開催 9月8~10日 西日本医科学生ヨット選手権大会(イタリア)に出場(山本・篠原20位、相田凌彦3位)3位(95艇中) (ア)セスティンギー5艇が准水(日本財团・広島市スポーツ協会・広島南ロータリークラブ) 9月11日 第1回ひろしまヨットビースカップ開催
2 0 0 5 (平成17年) 5月21~28日	第16回全日本学生ヨット選手権大会 不動元節理事が第四等瑞宝章受章	9月11日 アメリカ同時多発テロ事件	9月7日 第1回ひろしまヨットビースカップ開催
2 0 0 6 (平成18年) 5月26~30日	第20回全日本OP級ヨット選手権大会(オーストラリア・バース)に ヒロシマZoomers(艦勢2名)出場	9月11日 アメリカ同時多発テロ事件	9月7日 第1回ひろしまヨットビースカップ開催
2 0 0 7 (平成19年) 5月4日	第22回全日本OP級ヨット選手権大会(オーストラリア・バース)にて開催	9月11日 アメリカ同時多発テロ事件	9月7日 第1回ひろしまヨットビースカップ開催
2 0 0 8 5月24日 (平成20年) 7月26~28日	日本財团助成事業セーリング体験教室を開催 2008OP級ヨット選手権大会(オーストラリア・バース)に出席(山本・篠原20位、相田凌彦3位)3位(95艇中) (ア)セスティンギー5艇が准水(日本財团・広島市スポーツ協会・広島南ロータリークラブ) 9月7日 第1回ひろしまヨットビースカップ開催	9月11日 アメリカ同時多発テロ事件	9月7日 第1回ひろしまヨットビースカップ開催
2 0 0 9 1月16日 (平成21年) 2月	広島観音マリーナディンギーマート新年会開催(厚生年金会館)	9月11日 リーマンショック 9月15日 世界経済危機	9月15日 リーマンショック 9月15日 世界経済危機
2 0 1 0 3月24日 7月19日	2009チーナース世界選手権大会(オーストラリア・バース)に 県連救助艇用規定を制定	3月24日 県連救助艇用規定を制定	3月24日 県連救助艇用規定を制定
2 0 1 1 7月19日	広島大学体育会ヨット部創立60周年記念式典 (於)広島がーテナーバス	7月19日 広島大学体育会ヨット部創立60周年記念式典 9月11日 マイケル・ジャクソン死去 9月12~13日 第2回ひろしまヨットビースカップ開催(ア)セスティンギー7艇、選手34名)	7月19日 広島大学体育会ヨット部創立60周年記念式典 9月11日 マイケル・ジャクソン死去 9月12~13日 第2回ひろしまヨットビースカップ開催(ア)セスティンギー7艇、選手34名)

1994~2009

History

救助艇「安芸の小富士」怪走す?
広島県セーリング連盟の現在の救助艇「安芸の小富士」は2018年8月に完成したのですが、初代「安芸の小富士」は1979年に建造、進水しました。その経緯は1979年版会報に田中敏昭氏（当時広島県子供ヨットクラブ理事長）による投稿があります。

当時、ヨットの訓練における子どもたちの安全は、父兄にとってもクラブにとっても喫緊の課題でした。既存の救助艇「ちよかい」は波に弱く、付属した設備もない救助艇とは名ばかりの船だったため、いよいよ本格的救助艇建造へ機運が盛り上がっていきました。

たまたま県連が持っていた新品の船用ディーゼルエンジンを使いFRPの船体を購入し、よいよ建造手となりました。当時の手記では、ここからが県連の真骨頂。「いつ誰が設計したのか、種々艦装品について誰が注文をつけたのか、見積金額を誰が承認したのか、代金支払条件は最終的には工事発注書は?...そんなことには一向にお構いなく建造は着々と進んでいた」。さらに「...艇は浮かんだが借金返済のことで浮かぬ顔をしてくるクラブ会計の手に、進水式参列者からの御祝儀袋が手渡された。早速中身を確認するやあっと驚く鳥五郎（いまの蔵まで頭から離れなかった借金と同額の金子が入っていたのである）。田中曰く「広島県ヨット連盟はまことに不思議な魔法をもった団体である」。

Topics



70年の羅針盤

公益財団法人 広島県セーリング連盟

Compass

黄金時代から低迷の時へ、 そしていまあらたな時代へと。 幅広い取り組みが広島県の 未来を豊かにしてくれる。

さざまな困難に悩み立ち向かいさまざまな出会いに志新たにした70年。活気あふれる観音マリーナをベースにいまあらたな時代へと潜り出そう。



遊びからスポーツへ、 めざめていった黎明期。

司会：まずはそれぞれの自己紹介からお願いします。

沖田：公益財團法人広島県セーリング連盟の事務局長を2年前に辞めまして、現在は常務理事ですね。ほかにはセーラビリティ・ヒロシマアビの会のお世話をしています。

藤井：現在は県のセーリング連盟の理事長をしています。

赤羽根：これまで競技委員長であるとか、常務理事をやつていました。比較的早めに県連からは引退させても

らって、ローカルの方をお世話しております。

赤羽根：3年まで専務理事をやってました。井川さんにバトンタッチをしてしまっていまは参考ということなんですが、ほとんど何もタッチしてません(笑)。私が一番手がけたことは、OPの子どもの育成ですね。寺西さんといつ先輩といっしょになって子どものことを面倒みてました。主にバーべキュー担当です(笑)

司会：幅広げるという意味ではたいせつな活動ですね。

柚木：現在は、広島大学のOB会の会長をやっています。それと、中国学生ヨット連盟の会長をやっています。県連に関しては平成8年のひろしま国体までは、常務理事として関与していました。

司会：ちょうど一番忙しい時期でしたね。

柚木：それが終わって県連の方はハイタイアしましたが、最近は学生を見ています。

司会：県連のあゆみによりますと昭和23年に広島県ヨットクラブ設立とありますが、このころのことがお分かりになる方は…

柚木：(笑)さすがにいないよね。一番古いのがわたしで、昭和33年から関与してきました。現在もそうですが、当時は特にマイナースポーツですよね。ヨット人口も少ない。わたしは広島大学でね、インカレ(全日本学生ヨット選手権大会)とか大学にとっては重要な全国大会がありますけれども、そこに出でていっても全然歯が立たない。十年経ってもそいつら状態の広島県でしたね。わたしが入った頃から、競技として勝たないといけないといわれるようになって、一生懸命訓練するようになつた、ちょうどその時期に入りました。マイナーだけども、スポーツとしてのヨットという時代に入ったと思います。それまではレクリエーションといいますか、遊びといいますか、ヨットといつものまだまだ珍しい時代でしたね。

司会：とても素人考えですが、広島県は瀬戸内海に面しているものですから、そもそも最初からヨット競技は強かったたのでは、なんて勝手に思ってましたか。

柚木：ヨット、ましてやヨットレースというものを全く理解してなかつた頭でしたね。それと昭和33年といいますと石原慎太郎の小説『太陽の季節』がベストセラーになりました。ヨットを使って女子を誘う、そういう憧れの下にヨットの世界に入った人が私たちの世代はほとんどでしたね(笑)。結構遊びで入つたんですけど、いやいや遊びだけじゃないと目覚めたのが当時でしたね。県連として、組織はまだ漫然とやってた、

そういう時代だったと思います。

藤井：昭和26年に広島で国体がありましてね、そのときに広島県が60艇のヨットを作ったと聞いています。それを各クラブに配布したんですね。たとえば美業団ですと、三菱の広島造船所ですね。それとかマツダとか、IHIとか、おそらく10以上の実業団チームがこの頃一気にできました。大学についても、広島大学は昭和24年ぐらいでできていますけど、昭和30年ごろから、修道大学や近畿大学、広島工大、広島経済大学、あと海保大学ね。チームができて行つた。高校も同じように10近くの高校でヨット部ができました。

柚木：広島県が力を入れ出して、ようやく練習に使える船ができたわけです。それまではろくな船がなかった。

木の舟を拾ってきて、ヨットらしく見立てて無理やり使つていたような環境だったのが、確かに広大には10杯、国体の扱い下げをいたきました。

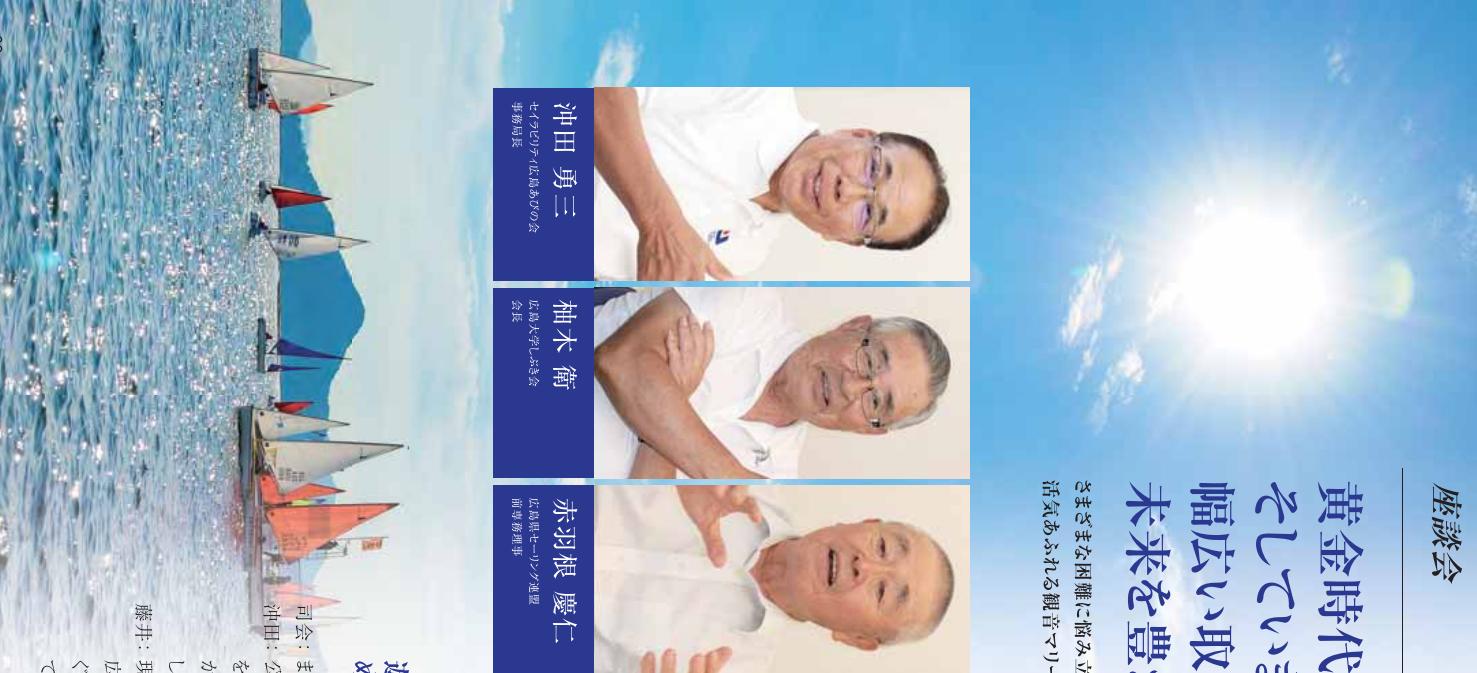
司会：スポーツ競技としてのヨットがだいぶ漫遊していく頃? いくんですけどね。優秀な人がいたんでしょうね。

藤井：柚木さんおっしゃつたように昭和30年ごろからみんなレースに目が向くになつてきて、広島で全日本インカレを主催してやつたんですよ。宇宙品でね。それが昭和37年です。当時はマリーナなんてないですから持つてきました、それを浮橋橋代わりに使ってました。このときのことを思い出しますと、まず予選をやつて、残ったものが決勝をやるんですけど、私は当時2年生だったんですけど、広島大学は毎々予選を通過する成績だったんです。ところが最後の一試合で、ある大学に失格をさせられましてね。その大学が予選通過…。

司会：失格をさせられた?

藤井：当時のルールではそういうことがありましたね、一生懸命やつたんですけど予選落ちでした。でも、それが次の飛躍のきっかけになつたと思いますね。これらから広島県全体のレベルがずっと上がってきたんですね。

司会：確かに年譜を見ても、昭和30年代途中から40年代へと、優勝や2位やと、のきなみ好成績ですね。まさに





に黄金時代ですね。

藤井：この頃は男子だけでなく、女子が昭和47年、48年、49年と3連覇してるんです。昭和50年には国体で天皇杯優勝・皇后杯2位とかね…。国体はいろんな種目があるんですが、ここでいい成績を上げられるというのは、一般でも、高校でもみんな強かったということです。

沖田：われわれの先輩に渡辺丈へさんという方がいらっしゃって、その方が昭和38年に理事長になられた。そして広島県セーリング連盟を改革されていきました。昭和37年にインカレを広島でするという時に、広島はまだ弱かったんだけども、そのまま戻らなくなれない。そこで広島でインカレすると言えば、その頃

日本一だった同志社とか、日大が定期戦をやってくれた。それまでは定期戦をするようなレベルじゃなかつたと思う。つまり広大を強くするために何をするべきかという一つの作戦です。当時、渡辺さんは高校の先生だったわけですよ。各高校にヨット部を作らせた。ボロい船を分けてもらつたりしてね。私も昭和38年に呉宮原高校にヨット部ができたときに入部したんですけど。高校のヨット部がかなりできていって充実してきた。それから、(藤井)健さんもよくご存じすけど、薬科大学・現修道大学だつたり近大だつたり、工大もそうですが、渡辺先生がレヘルアップする道筋を作られたと思いますね。それとただ

藤井：昭和37年に広島でインカレをやって、38年に3

司会：現在の広島は競技レベルとしてはどのあたりなんですか？

柚木：国体で10位くらいかな？

「渡辺さんの嘆きが聞こえる」。



沖田：そういう良いスピリットを、まず柚木さんが受け継ぎ、健さんが受け継ぎ、我々も受け継げたわけですね。先ほど健さんが言われた、国体で女子が優勝したというのも、渡辺さんが即席で選手をつづって、とにかく鍛えるわけです。

藤井：昭和37年に広島で競技レベルとしてはどのあたりなんですか？

司会：現在の広島は競技レベルとしてはどのあたりなんですか？

柚木：国体で10位くらいかな？

沖田：広島の場合、広大にしても、近大にしても、キャンパスが移転して郊外に引っましたのが少なからず影響してるかもしれないですね。学生に対しての負担も増えてきますよね。

司会：さきほども語が出来ました! 1990年代になると、アジア大会や国体があり、広島のスポーツがとてもぎわってきた時代を迎えます。

沖田：広島でやつたんですね。それを宮島でやつたんです。公用語が英語ですから通訳を探すところから始めてまして、本当に、本番大会で使うマリーナでやるものが本当なんですが、それが間に合わなかったため宮島でやつたんです。その時に4つの海面を使って競技をしたんです。普通レースは1海面1種目でやるんですけどね。だから非常にたくさんの人数が必要でした。そこで、それぞれの会場にOBの組織を作りました。これからは競技レベルを高めていかないといけない」ということを渡辺さんはすっと考えてたんですね。これからはハーバーワンの腕を持った指導者、そして熱情を持つた指導者じゃないと勝てない。そういう人をどうやって育てるかを考えんといかんのだ、といふことをずっと言っていた。ここ最近のレベルの低迷に対しても、その一言に尽きますね。渡辺さんは、間違いのない指導者だったと思いますね。そういうことを誰も信じてなかつた。ところがそれを一つ一つ指導されて、先ほどお話をあったように田舎の大学が中央の大学に対して、昭和46年のインカレで優勝するわけです。15年前に亡くなられたのですが、広島県セーリング連盟も大きな存在になつたわけです。

藤井：その頃でいうと、東京、神奈川、そして広島と、3本の指に入るくらいの存在でした。広島県のヨット人口は、

ど、いまは220人くらい。全国的にもそうで、日本セーリング連盟の会員数は一時2万人近くいたんですけど、いまは5、6千人。非常に低迷の時期になつてしまふ。まずは競技人口を増やさないとね。少ない中で

「勝つた、負けた」といっても全体のレベルも上がらないですね。

赤羽根：ただですね、最近不思議だなと思うのは、九大とか、京大、金沢大学といった国立大学で、すごく部員が増えてるところがあるんです。私立でも、日大とか同志社、関学とか国立大学以外でも、学生の数が増えたところがあるんです。そういうところは一時は強くなったりてるんですけど、やはり長続きしない。一方の伝統校は、何が違うのかといふと、やっぱいい先輩がいる、いい教諭があるね。それが違いかなと思う。

藤井：1990年に北京でのアジア大会を観察に行かさせていただいて、本番1年前にアジア大会のリハーサルをやらなくてはいけないことにあって、アジア選手権大会を宮島でやつたんです。運営をスムーズにすこなめにはどうしたらいいか、というのを経験するためにおこないましたが、これが広島での初めての国際大会だったんですね。それを宮島でやつたんで

す。公用語が英語ですから通訳を探すところから始めてまして、本当に、本番大会で使うマリーナでやるものが本当なんですが、それが間に合わなかったため宮島でやつたんです。その時に4つの海面を使って競技をしたんです。普通レースは1海面1種目でやるんですけどね。だから非常にたくさんの人数が必要でした。そこで、それぞれの会場にOBの組織を作りました。これからは競技レベルを高めていかないといけない」ということを渡辺さんはすっと考えてたんですね。これからはハーバーワンの腕を持った指導者、そして熱情を持つた指導者じゃないと勝てない。そういう人をどうやって育てるかを考えんといかんのだ、といふことをずっと言っていた。ここ最近のレベルの低迷に対しては、その一言に尽きますね。渡辺さんは間違いない指導者だったと思いますね。そういった中で、国体では10位くらい、インター・カレッジでしまま24校出場してるんですけど20位前後という、非常に低迷したレベルです。指導者の熱情、それについてくる選手の熱情、これが足りない。それを厳しくすると部員が減少する。いま全国的にも部員の数が激減ってるんです。ヨット界全体もそうです。

赤羽根：海面については、その裏話の一つが、外国の選手・コーチ・スタッフは小型船舶の免許持っていない人がほとんどんですね。免許持っていない人は海に出ちゃいけんと言われたんですか、これに怒ったのが渡辺さんでした。海上保安部へ行って、ほかの国は全部自分の自己責任でやるんだ。そういうなかで海上保安部のことを持ち出したら国際ルールに反する。「なんとかしてくれ」と。それで海上保安部は、アジア大会に限り、海面と時間を区切つて走つても良いといふことになつた。とにかくあの時は大変だった。わた

藤井：1993年のプレアジア大会、94年がアジア大会、95年の国体リハーサル大会、そして96年のひろしま国体。この4年間は運営する役員も非常に充実していくと思います。運営のものも広島県の運営はビックリだったと評価されました。運営に対しては、いい流れができる現在も続いていると思います。現在のスタッフはすいぶん若返りましたけれど日本に誇れるくらいのスタッフだと思っています。あとは競技のレベルアップをいかに図つていくかが使命で、1990

しはそばで見ていたハラハラしてた。嘘嘘じゃないですが「世界の人を呼んだのに、世界に通用せんことは駄目じゃ。なんとかしてくれ」と言って、海上保安部の人が妥協案を出してくれたんです。

藤井：昨年のハンザクラスマッチ世界大会の時も苦労しました。それのお国での免許というか証明書があるわけです。そのコピーをそれぞれ送ってもらいました。中国運輸局に問い合わせました。なんとか許していましたね。

赤羽根：アジア大会の時、もうひとつのは苦労話として、どの会場でも火を焚きハイベキューをして酒を飲むんです。ヨットの場合、特に外国では競技が終わると必ずお酒を一杯やつたりするんです。ほかの競技、例えば陸上競技場でそんなことは考えられないですよ。ところがヨットは違うんです。そもそも、渡辺さんがねほじんてくれた(笑)

司会：アジア大会のような国際大会ともなるといろんな苦労話があつたんですね。

沖田：アジア大会で優勝した広大の選手がいて、ここでも渡辺さんがからんでるんですが、彼はコーチと一緒に2か月ほどイギリスに行ってね、縋密なプログラムで練習をやってきたんですね。その成果としてアジア大会では金メダルとれました。

藤井：アジア大会では審判を集めたりね。

赤羽根：健さんが集めたの?

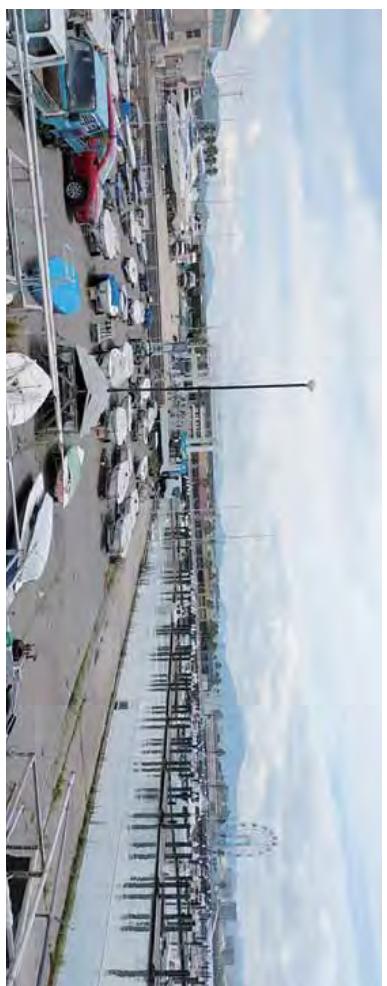
藤井：うん。なんて私が、と思ってましたけどね(笑) 旅費を往復出すからと…お願いして。5名くらいね。

沖田：健さんのイギリス暮らしがこの時生きましたね(笑)

誇れる観音マリーナの完成。

赤羽根：そのあと、観音マリーナが完成する話になるんですが、OP(子供用ヨット)のセーリングスクールをやらんにやいけん、小さい子どもの時からやって育てない

と、という渡辺さんの話がまとになって、県連のOPスクールを始めたんです。でも場所がなかったから鯛尾(坂町)のマリーナ、宇品造船の跡、五日市の漁



ハンザとの出会い。

港の側、それから観音とかでやつてたんです。観音に来たときにはまだ原っぱで何もない時。OPの基地をここにつくるとJRから40フィートコンテナを安く借りて置いたんです。とにかく水たまりばかりの原っぱで水もなかつた。ただ工事用の水道があるだけ。黄色い大きなタンクに水を入れて水道代わりにしたり、それを一杯やつたりするんです。ほかの競技、例えば陸上競技場でそんなことは考えられないですよ。ところがヨットは違うんです。そもそも、渡辺さんがねほじん

司会：アジア大会の頃もOPの子どもたちはここで活動してました。その頃、アスファルトをひいてくれた(笑)

沖田：アジア大会で優勝した広大の選手がいて、ここでも渡辺さんがからんでるんですが、彼はコーチと一緒に2か月ほどイギリスに行ってね、縋密なプログラムで練習をやってきたんですね。その成果としてアジア大会では金メダルとれました。

赤羽根：そもそも候補地を決めるのに、県も広島県セーリング

連盟も「観音に造る」と確信していた。ただ一つ問題があったのは、当時ここに空港港があった。そのため空域による建物制限があった。

藤井：アシア大会では審判を集めたりね。

赤羽根：健さんが集めたの?

藤井：うん。なんて私が、と思ってましたけどね(笑) 旅費を往復出すからと…お願いして。5名くらいね。

沖田：健さんのイギリス暮らしがこの時生きましたね(笑)

司会：空港自体は、アシア大会前に本郷に移転しましたよね。赤羽根：空港は移転してもまだ電波塔があつたわけですね。

藤井：当時、ヨットも近づけなかつたですからね。

司会：観音マリーナができるまでは、みなさんはどこで活動してたんですか?

赤羽根：広大は向宇宙品、実業団は海楽園。

藤井：近畿大学工学部は倉橋町の重生にあつたね。

赤羽根：広島大は地御前。

司会：県連としてここ観音マリーナにひとつに集約できたわけですね。

沖田：大きな出来事でしたね。

赤羽根：観音のほかに、廿日市や吳とともに候補地になつたことがあるんです。空港機能がまだここに残っている



センターを訪問したんです。300人ぐらいの障がい者は通って来られる施設なんですが、そこで西野さんと

いう方と出会って、それから障がいの方を招待して試乗会をやったり、いろいろ交流がはじまりました。

井川：西野さんご自身もそれからヨットにはまられて。今まで

は当選盟の理事もしていただけています。

沖田：それまでは、観音マリーナのデインギーヤードに障がいの方方が来るなんてことは全然なかつたんですよ。それが来られるようになって、ちょっと風景が変わりましたね。

井川：観音マリーナの整備がいろいろ進んだのもそれからですね。2006年にスロープができた頃からね。

司会：障がいの人が多く出入りするようになつたり、子どもたちを指導したり、広島県におけるヨット競技のすそ野というのは確実に広がつてんじないですか？

井川：みなさん、相互理解というか、交流の輪が確実に広がっていますね。それまで会つたこともないような障がいを持たれている方とここで一緒にになって、小学生も大学生もすごく仲良くなつたり、分け隔てなく活動してますね。そういう意味では社会的にもいい雰囲気ができます。最初は、障がい者というと助けてあげないといけない、という雰囲気だったのが、逆に助けられたり。障がい者の方が自立されてるのを見て、わたしが学んだり、そんな風になってきてます。さらに、そこにボランティアの方も来てもらえるし

司会：子どもたちは、大人より新しい世界にすぐ順応しますよね。

井川：そうです。ヨットもすぐ覚えます。今の子はゲーム感覚で入りますからね。いまはオリンピックも近いし、オリンピック選手といっしょにやったこともあるから、そうはいっても強くなりたいよね、というのはみんな思ってます。横つながりもできて、いい雰囲気でやれてると思います。

ど、それはだいぶ埋まってきたかなと思って。これからもうちょっと埋まればいいのになあと思ってるところです。

広島をちょっと燃え上がらすようなね。

司会：これからどうなって行くのでしょうか。

沖田：これから県連が何をめざすのか。インターナショナル・インクルーシブ・セーリング・センターというものをめざそう、という考えがあります。結局、ハンザというものが年齢や性別、障がいのあるないにかかわらず一緒にになって楽しめるという競技なんですね。男と女が戦つたり、小学生と80歳のお年寄りが戦つたり、ほかの競技では決してできないことがハンザではできるわけです。もちろん広島県の優れたアスリートを育てたいというのはあるけど、一方で障がいの子どもたちを集めてセーリングができる場所にしよう、というのもひとつの目標にしているわけです。そのためにも、障がいの者や子どもたちにどんどん海外といもの経験させていきたいと思いますね。

井川：そういう前向きな構想が持てるようになった、インクルーシブな話が外向きにできるようになったと思いますね。われわれの確かな文化になったと。10年前より確実に前進しているなと。

沖田：そのためには人を育てることがやはり大切ですね。司会：来年は、いよいよオリンピックイヤーですが、県連と一緒に、そこにボランティアの方も来てもらえるし

して何か動きはあるんですか？

井川：競技委員として広島からボランティアでかなりの数の方が行かれます。もう研修が始まつてまして、地元の関東は別にして広島が一番多いんじゃないですか。

袖木：何人くらい行くの？

井川：10人くらいです。

藤井：この前も、吳から親子7組くらい連れて来てハンザを経験したんです。その時松葉杖をついてる人、片足義足んですけど、その方がいっしょに教えてくれるんです。77歳のおばあさんも乗れるんです。とても微笑ましいいい会でしたね。これからもいろんないい機会が持てるのを期待してます。



沖田：いま、いろいろな面で協力していただいているのが島東洋カーブなんです。広島スポーツ文化財団をくられて、県連にもいろいろ協力をいただいて、大いに勇気や元気をいたしました。

袖木：観音マリーナはまだ全国規模の大会を開いたこと

がない。カキいかだの関係で海面が取れない。それをね、今日何度も話が出た渡辺さんの遺志を継いで、なんとか開催できるように努めていただきたい。

それが願いですね。そんな大会が来ないとレベルアップもできないですね。



われわれの確かな文化ができはじめている。

司会：また強い広島県が戻ってくる？

沖田：10年位強化委員長やつてたんですね。カーパと同じなんです。育てた子が外に出ていくんですね。でも、だんだん帰ってきてくる子も出てきてるんですね。広島の雰囲気が良ければもっと帰ってきてくれると思います。最近では指導者で帰ってきてれる、そんな循環がやっと出来始めるかなと。弱点がいっぱいあったんですけど

70年の羅針盤 Part2

航跡をたどって

70年の航跡は、波あり、風あり、そして涙も笑顔もありました。積み重ねてきた歴史を「会報」から振り返ります。

■ 1949年～

第6回広島国体この頃の広島のコント界

昭和24年(1949)9月、たった3隻の正式規格のヨット(第3回福岡国体で使用したスナイプ級ヨットを瀬戸内海汽船が払い下げを受けて所有していたもの)でスタートした広島ヨット連盟は、翌25年(1950)4月に日本ヨット協会に

九州ヨット協会広島支部として仮勅願ました(正式勅願は翌26年2月24日九州ヨット協会から中国ヨット協会が独立してその傘下に入った)。

しかし何としてもこの国体を成功させよう、そしてこの機会に広島にもヨットを普及させようと、当時学生であった我々

に至るまで皆二生懲諒情熱を傾け、それだけに又希望に満ちた日々であったことを思い出します

設立してまだ日の浅いしかも陪都素人集団に近い広島県ヨット連盟にとって、国体の開催などと言うことはまさに大変な大仕事であったことは言うまでもありません。それでも

どにか準備も整い、昭和26年9月21日高松市様のご臨席のもとに宮島小学校において開会式が催され、第6回広島国体ヨット競技の幕開けとなった次第です。全国23の都道府県から約300名の選手監督の参加でしたが、競技の方は風が弱い上に潮流が早く全艇潮に流されて陸上本部の規界から消えてしまうと言ったハプニングもあ

陸上本部の規界から消えてしまうと言ったハーピングもあ
りましたが、全レース成立して無事終しました。
広島県の成績の方は今一つハッピsez、ヨット競技では
常に言われている“地の利”を生かすことができず、前年
第5回国体より対戦に一つ下がって9位に甘んずる結果と

して違う上に造船技術も今まで幕開け以前といったところでした。そういった環境の中において当時の選手たちはより早く走りたい一心で全くの「見よう見まね」で或は独自の工夫を凝らして技量の向上に励んだものでした。それは今は時代が違うので比較にもならないかもしませんが、そういう姿勢が大切だと思います。そんなことも考えながら、今後の国体の隆盛ヒヤット競技の発展を祈りつつ筆を置く事とします。

いため、20-30艇身詰めで走っては、タッキングを繰り返しながら、メインシートは緩めっぱなしでただ沈を避けたので苦悶でした。当時の海上自衛隊の支援態勢は、一隻以外に小型の上陸用舟艇6-7艇あり、沈したヨハクバウのスローブを開けて直接艇内に引きあげて救助する方法を探っていました。恐らく参加艇の半数近くは泣たのではないかでしょうか。我々は死に物狂いになりましたが、何とか沈をまぬがれ、睦月島か中島かと思いませんか？ 漢にヨットを着けることができて命拾いしました。

(1996会報より一部抜粋)

中盤からの準備運営と海上自衛隊の支援

寺西さんがIHI勤務時代は、吳ヨット連盟前理事長の若重さんと協力しながらIHIグループが横断レースの準備

署が輸送隊、掃海隊、水中処分隊などで、多くの皆さんにお世話になっています。また、東京オリンピック以来、西日本地区の国体には県総監部から支援に出向いて頂いていますし、過去広島であったインカレ本大会やアジア

コトハ逃すアキ、ノンノハ云くはハヌムハル。即ちによつて、アキヨハヨットレース運営のバティランになつて頂いており、スタートマークに掲げるオレンジ旗やファニッシュマークのブルー旗は常に準備しておられます。また、赤白に色分けした20m余りの布ホースを作り、本船の側壁に垂らして使うスタートライン補助表示装置まで準備して頂いていた時代もあり頃が下がります。

中止となつた大会

毎年、いろいろなハーピングが生じるものだが、強風のためにレース途中で中止されたのが上述の第9回大会(1963)、レース前日が強風で集結できぬために中止が第12回大会(1966)、瀬戸内海独特の濃霧のため前日

江沖のスタート直前に、濃霧が発生したため正午頃まで海上で待った挙げ句の中止が第39回大会(1993)でした。出航後の濃霧発生は特に気を使い、艇が散らばらないように、汽笛を鳴らしたり音楽をかけたりしながら、本部船の位置をレース艇に教えたり、運営艇の行方が分から



(1996会報より一部抜粋)

■ 1958年～

瀬戸内海横断ヨットレースの想い出

六〇ノト連盟 脳井 達川 節夫

死に物狂いの横断レース

私が初めて横断レースと関わったのは大学3年時の昭和38年の第9回大会で、学生とOBが一緒にあって大挙して松山に乗り込みました。前日のミーティングで、翌日の天気予報から荒天が予想されたため、通常のアカ汲みでは間に合わないのでバケツを買っておくように指示がありました。

スタート地点は興島と四国本土の間の水道奥の梅浦沖で、大型艇5艇を含む85艇のヨットがスタートしました。スタート後現在の松山フェリーの発着場のある水道に

出ると、水道出口方向の北東からもの凄い風と曰波が、轟きかかってきました。潮流は水道出口方向に流れ、風は向かい風のため鋭い三角波となっており、3人乗っていたスナイプはまやを波に突っ込んで水切りが全く役に立たなくなってしまった。そこで沈が始めています。水道橋が斜めに有様で、あちこちで沈が始まっています。

アーティストコレクション
大賞

ティングレースも多く、ヨットレース自体にはサメの恐怖は関係ありません。しかし、問題なのはスタート地点が犠牲者の出た場所で、漁業関係者から見ればヨットは遊びにしか見えないし、地元の方の心情を考えた時の決断でした。

中止の決断に至る過程では、もちろん愛媛側との入念な相談あつてのことでした。横断レースに限らず、大会を開催する場合、関係する漁協の皆さんには、何時もお世話をききかけとなり、各地の海水浴場ではサメ避けネットの設置が常識となり今も続かれています。

(2004会報より一部抜粋)

■ 1985年

広島県子供ヨットクラブ 設立15周年に当り思うこと

広島県子供ヨットクラブ 理事長 田中 敏昭

昭和44年11月クルーザーで別府を訪れたとき、別府湾で行なわれていたOPのヨットレースを見て「これだ、子供に最も適だと直感しました。海は広く、美しく、子供をスポーティする要素は殆んど無く、温かく迎えてくれる。反面、天気が急変して我々に牙をもいて襲いかかって来る事もある。海に出ると潮の流れを、風の動きを、又空模様を眼でよく見、肌で感じながら経験を生かして行動せねばならない。そうした海で身体を鍛え、根性を養い、自然を愛する気持ちを育て、且つ大自然の法則のほんの一端ではあるが、知ることが出来、自然に対する畏敬の念を身につけさせれる……等々が出来ると欲張った理念に基づいて、關係各位の御助言、御指導、御援助を戴いて広島県子供ヨットクラブが設立されました。

しぶきか、汗か、はたまた涙か、或はそれらがミックスされたものか、顔一面びよびよになり歯をくいしばって頑張る女の子の姿。ある時は水泳禁止区域で、わざと沈めさせて喜々として泳いでいる男の子の姿。他艇に負けじとシートをドライバーを真剣に握っている小学校低学年の子の姿……昨日かの様に目の前に浮かんで来ます。煮ても焼いてもどうにもならないと思える様な子が、クラブを卒立つ頃は、素直できびきびとしてファイトのある若者に育っています。歯弱で引っ込み思案と思われた子が、身体もたましく、根性のある立派な青年に育っているのを見るにつ

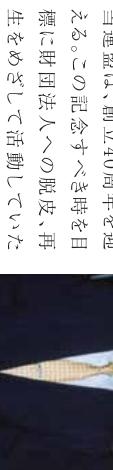
け、この活動をやつて来て良かったなあとしみじみと感無量になる毎今です。

皆さん御承知のヨットの神様といわれる、ポール・エルブストローム氏は「私は決して抗議をしません。すべてのレースには後の日々があり、友情の方がはるかに大切だからです」と語ったと言う。彼は勝つことより友情を大切にしているようです。現在の日本人が忘れている、否失っているものを痛烈に批判しているように私の耳には聞こえて参ります。運営を円滑にする為に設定されたルールを選手にとって相手を不利な状況に追い込み、勝利を手にするといった考え方、勝つ為にはルールを最高度に利用(悪用かない)するという思想、そんな考え方、思想を子供たちに植え付けてください。自分の力を充分に發揮して正々堂々と戦う子供に育つて欲しいと思う。

■ 1985年

財団法人設立第1周年

広島県教育委員会から認可を得て発足した。財団法人が最初である。いまだマイナーである我々が、法人になつた事については、昔では驚きであるかもしぬが、将来の発展のためにこれがなされたことを、銘記すべきであろう。



が、1年早く昭和63年7月19日

広島県教育委員会の傘下で、財団法人になったのは広島県日本ヨット協会から認可を得て発足した。財団法人

が最初である。いまだマイナーである我々が、法人になつた事については、昔では驚きであるかもしぬが、将来の発展のためにこれがなされたことを、銘記すべきであろう。

財団の事業「人作り」

「人作りは10年かかる」と言った人がおられたが、私も同感である。

中でもヨット乗りは、少年の頃からヨットにのじみ、世代相応に大小様々なヨットに乗って訓練されて、初めて飼敏なフライリングを身につけ、アートまで高められたセーリングが可能になると思っている。そのような人はあらゆる面で、海に対する高い見識を持っている。

「人馬一体」という言葉がある。私は青年期、馬に乗っていた頃があった。「ヘタクソ」が乗ると馬は大きな違和感を感じ、立腹して落馬させようとするのだ。しかし上手な人が乗ると、馬は背中に人を乗せておるとは思わないというのである。上手にもびんからりキリまであるとは申せ、「人馬一体」という語のゆえんはこのあたりにあるようだ。



■ 1993年

第7回アジアヨット選手権大会事業報告

事務局担当 濑尾 潔

組織と運営について

アジア大会に於ける運営組織と同一の組織を編成した。(広島における)初めての国際選手団を招いての大会開催であり、競技総務部の業務内容についての知識が少ないので事前の協議を十分行なうことが出来ず、事態に直面して対応を決定するケースが当初想定外でしたが、

ともあれ今まで順風に帆を張って、平穡無事に取扱をあげつゝ航海を続けることが出来たのは何かにつけて事務局を支えて下さった御父兄の御協力の賜でありま

す。この紙面を借りて厚く御礼を申し上げます。

ヨットも同じようなものではなかろうか。人と艇が無限に一

体化するところにアートは生れる。小さい艇から大きな艇、

強烈な個性をもつた諸種の艇に乗ることによって、鋭敏な

フィーリングは生れ、人と艇との限無の接近——「一体感」こ

そが「アート」なるセーリングを把握させると考える。

この理想を実現する為には、ジュニアからミドル、そして大

学生、社会人へと一貫した育成の道を設定し、小型艇から

大型艇まで色々乗りませ、高いフィーリングを育てるシス

テム(作り)を急がねばならぬ。「要是人なりである」。

クルージングネットワークとサンセッティング(垂水)オープンレース

瀬戸田町は西の東照宮といわれた辯三寺を中心におく門前町、以前から観光の町である。この垂水地区に、サンセッティング(ヨット)の一期整備が一応完成し、その記念として開催されたのがこのレースである。

今や多くの海洋ヨットが計画され、広島県海内では19ヶ所もある。今や我々は、広島県海にクルージングネットワークを設定すべき重大な使命を荷負っていると考える。しかし、情けない事に現代のクルージングネットワークはその縦にもついていないのを悲しむ。おまけに古代の万葉人は、内海にクルージングネットワークを既に形成していたのはまさに驚きである。我々はその懶惰にふれ、現代の先達としての使命感をもってこれを形成すべきではなかろうか。

広島県海クルージング・ヨットフェスティバルは、クルージングネットワーク形成への夢をかけ、さらに、マリーナネットワークなるものに合体していく事を理想として開催されるものであり、会員各位がその先達としての使命感をもってご協力願いたいものである。

が、1年早く昭和63年7月19日

広島県教育委員会の傘下で、財団法人になったのは広島県日本ヨット協会から認可を得て発足した。財団法人

が最初である。いまだマイナーである我々が、法人になつた事については、昔では驚きであるかもしぬが、将来の発展のためにこれがなされたことを、銘記すべきであろう。

財団の事業「人作り」

「人作りは10年かかる」と言った人がおられたが、私も同感である。

中でもヨット乗りは、少年の頃からヨットにのじみ、世代相応に大小様々なヨットに乗って訓練されて、初めて飼敏なフライリングを身につけ、アートまで高められたセーリングが可能になると思っている。そのような人はあらゆる面で、海に対する高い見識を持っている。

「人馬一体」という言葉がある。私は青年期、馬に乗っていた頃があった。「ヘタクソ」が乗ると馬は大きな違和感を感じ、立腹して落馬させようとするのだ。しかし上手な人が乗ると、馬は背中に人を乗せておるとは思わないというのである。上手にもびんからりキリまであるとは申せ、「人馬一体」という語のゆえんはこのあたりにあるようだ。

ヨットも同じようなものではなかろうか。人と艇が無限に一

体化するところにアートは生れる。小さい艇から大きな艇、

強烈な個性をもつた諸種の艇に乗ることによって、鋭敏な

フィーリングは生れ、人と艇との限無の接近——「一体感」こ

そが「アート」なるセーリングを把握させると考える。

この理想を実現する為には、ジュニアからミドル、そして大

学生、社会人へと一貫した育成の道を設定し、小型艇から

大型艇まで色々乗りませ、高いフィーリングを育てるシス

テム(作り)を急がねばならぬ。「要是人なりである」。

ヨットも同じようなものではなかろうか。人と艇が無限に一

体化するところにアートは生れる。小さい艇から大きな艇、

強烈な個性をもつた諸種の艇に乗ることによって、鋭敏な

フィーリングは生れ、人と艇との限無の接近——「一体感」こ

そが「アート」なるセーリングを把握させると考える。

この理想を実現する為には、ジュニアからミドル、そして大

学生、社会人へと一貫した育成の道を設定し、小型艇から

大型艇まで色々乗りませ、高いフィーリングを育てるシス

テム(作り)を急がねばならぬ。「要是人なりである」。

ヨットも同じようなものではなかろうか。人と艇が無限に一

体化するところにアートは生れる。小さい艇から大きな艇、

強烈な個性をもつた諸種の艇に乗ることによって、鋭敏な

フィーリングは生れ、人と艇との限無の接近——「一体感」こ

そが「アート」なるセーリングを把握させると考える。

この理想を実現する為には、ジュニアからミドル、そして大

学生、社会人へと一貫した育成の道を設定し、小型艇から

大型艇まで色々乗りませ、高いフィーリングを育てるシス

テム(作り)を急がねばならぬ。「要是人なりである」。

ヨットも同じようなものではなかろうか。人と艇が無限に一

体化するところにアートは生れる。小さい艇から大きな艇、

強烈な個性をもつた諸種の艇に乗ることによって、鋭敏な

フィーリングは生れ、人と艇との限無の接近——「一体感」こ

そが「アート」なるセーリングを把握させると考える。

この理想を実現する為には、ジュニアからミドル、そして大

学生、社会人へと一貫した育成の道を設定し、小型艇から

大型艇まで色々乗りませ、高いフィーリングを育てるシス

テム(作り)を急がねばならぬ。「要是人なりである」。

ヨットも同じようなものではなかろうか。人と艇が無限に一

体化するところにアートは生れる。小さい艇から大きな艇、

強烈な個性をもつた諸種の艇に乗ることによって、鋭敏な

フィーリングは生れ、人と艇との限無の接近——「一体感」こ

そが「アート」なるセーリングを把握させると考える。

この理想を実現する為には、ジュニアからミドル、そして大

学生、社会人へと一貫した育成の道を設定し、小型艇から

大型艇まで色々乗りませ、高いフィーリングを育てるシス

テム(作り)を急がねばならぬ。「要是人なりである」。

ヨットも同じようなものではなかろうか。人と艇が無限に一

体化するところにアートは生れる。小さい艇から大きな艇、

強烈な個性をもつた諸種の艇に乗ることによって、鋭敏な

フィーリングは生れ、人と艇との限無の接近——「一体感」こ

そが「アート」なるセーリングを把握させると考える。

この理想を実現する為には、ジュニアからミドル、そして大

学生、社会人へと一貫した育成の道を設定し、小型艇から

大型艇まで色々乗りませ、高いフィーリングを育てるシス

テム(作り)を急がねばならぬ。「要是人なりである」。

ヨットも同じようなものではなかろうか。人と艇が無限に一

体化するところにアートは生れる。小さい艇から大きな艇、

強烈な個性をもつた諸種の艇に乗ることによって、鋭敏な

フィーリングは生れ、人と艇との限無の接近——「一体感」こ

そが「アート」なるセーリングを把握させると考える。

この理想を実現する為には、ジュニアからミドル、そして大

学生、社会人へと一貫した育成の道を設定し、小型艇から

大型艇まで色々乗りませ、高いフィーリングを育てるシス

テム(作り)を急がねばならぬ。「要是人なりである」。

ヨットも同じようなものではなかろうか。人と艇が無限に一

体化するところにアートは生れる。小さい艇から大きな艇、

強烈な個性をもつた諸種の艇に乗ることによって、鋭敏な

フィーリングは生れ、人と艇との限無の接近——「一体感」こ

そが「アート」なるセーリングを把握させると考える。

この理想を実現する為には、ジュニアからミドル、そして大

学生、社会人へと一貫した育成の道を設定し、小型艇から

大型艇まで色々乗りませ、高いフィーリングを育てるシス

テム(作り)を急がねばならぬ。「要是人なりである」。

ヨットも同じようなものではなかろうか。人と艇が無限に一

体化するところにアートは生れる。小さい艇から大きな艇、

強烈な個性をもつた諸種の艇に乗ることによって、鋭敏な

フィーリングは生れ、人と艇との限無の接近——「一体感」こ

そが「アート」なるセーリングを把握させると考える。

この理想を実現する為には、ジュニアからミドル、そして大

学生、社会人へと一貫した育成の道を設定し、小型艇から

大型艇まで色々乗りませ、高いフィーリングを育てるシス

テム(作り)を急がねばならぬ。「要是人なりである」。

ヨットも同じようなものではなかろうか。人と艇が無限に一

体化するところにアートは生れる。小さい艇から大きな艇、

強烈な個性をもつた諸種の艇に乗ることによって、鋭敏な

フィーリングは生れ、人と艇との限無の接近——「一体感」こ

そが「アート」なるセーリングを把握させると考える。

この理想を実現する為には、ジュニアからミドル、そして大

学生、社会人へと一貫した育成の道を設定し、小型艇から

大型艇まで色々乗りませ、高いフィーリングを育てるシス

テム(作り)を急がねばならぬ。「要是人なりである」。

ヨットも同じようなものではなかろうか。人と艇が無限に一

体化するところにアートは生れる。小さい艇から大きな艇、

強烈な個性をもつた諸種の艇に乗ることによって、鋭敏な

フィーリングは生れ、人と艇との限無の接近——「一体感」こ

そが「アート」なるセーリングを把握させると考える。

この理想を実現する為には、ジュニアからミドル、そして大

学生、社会人へと一貫した育成の道を設定し、小型艇から

大型艇まで色々乗りませ、高いフィーリングを育てるシス

テム(作り)を急がねばならぬ。「要是人なりである」。

ヨットも同じようなものではなかろうか。人と艇が無限に一

体化するところにアートは生れる。小さい艇から大きな艇、

強烈な個性をもつた諸種の艇に乗ることによって、鋭敏な

フィーリングは生れ、人と艇との限無の接近——「一体感」こ

そが「アート」なるセーリングを把握させると考える。

この理想を実現する為には、ジュニアからミドル、そして大

学生、社会人へと一貫した育成の道を設定し、小型艇から

大型艇まで色々乗りませ、高いフィーリングを育てるシス

テム(作り)を急がねばならぬ。「要是人なりである」。

ヨットも同じようなものではなかろうか。人と艇が無限に一

体化するところにアートは生れる。小さい艇から大きな艇、

強烈な個性をもつた諸種の艇に乗ることによって、鋭敏な

フィーリングは生れ、人と艇との限無の接近——「一体感」こ

そが「アート」なるセーリングを把握させると考える。

この理想を実現する為には、ジュニアからミドル、そして大

学生、社会人へと一貫した育成の道を設定し、小型艇から

大型艇まで色々乗りませ、高いフィーリングを育てるシス

テム(作り)を急がねばならぬ。「要是人なりである」。

ヨットも同じようなものではなかろうか。人と艇が無限に一

体化するところにアートは生れる。小さい艇から大きな艇、

強烈な個性をもつた諸種の艇に乗ることによって、鋭敏な

フィーリングは生れ、人と艇との限無の接近——「一体感」こ

そが「アート」なるセーリングを把握させると考える。

この理想を実現する為には、ジュニアからミドル、そして大

学生、社会人へと一貫した育成の道を設定し、小型艇から

大型艇まで色々乗りませ、高いフィーリングを育てるシス

テム(作り)を急がねばならぬ。「要是人なりである」。

ヨットも同じようなものではなかろうか。人と艇が無限に一

体化するところにアートは生れる。小さい艇から大きな艇、

強烈な個性をもつた諸種の艇に乗ることによって、鋭敏な

フィーリングは生れ、人と艇との限無の接近——「一体感」こ

そが「アート」なるセーリングを把握させると考える。

この理想を実現する為には、ジュニアからミドル、そして大

学生、社会人へと一貫した育成の道を設定し、小型艇から

大型艇まで色々乗りませ、高いフィーリングを育てるシス

テム(作り)を急がねばならぬ。「要是人なりである」。

ヨットも同じようなものではなかろうか。人と艇が無限に一

8月に入ると国外からFAXが入り始め、30mの記録紙が忽ち用紙切れとなる。初めて受け取る英文FAXには一種の恐怖さえ覚る、その内容を理解するには時間を必要とし、即答が困難であった。回答に手間取ると電話で迫つて来る。忽ちパニックに陥る事となつた。この事態を何とか解決するため、女子学生の派遣支援、更に渡辺専務理事並びに寺西常務理事の奥方にも家事を犠牲にしての支援を戴きやっと平静を取り戻すことが出来た。



翌年のアジア大会では前田・後藤組が金メダル

器具の運搬・宿所の状況・本国からの送金・保険・部品の修理購入等、既に案内済みの事も再度尋ねて来る。資料の事前整備・情報の集中管理を心掛けおけば、そのままは懸念で処理が可能であることが判明した。懸念部門を強化しておくことで、その大半は処理出来、迅速な回答が最大のサービス提供となる。本格的な大会事務所設置と事務職員の早期配置が理想であろうが、資金面で実現は至難である。



翌年のアジア大会では前田・後藤組が金メダル

（1994会報より　一部抜粋）

競技会2日目には、秋篠宮同妃両殿下が会場にお見えになりました。午前中、大変な豪雨となり、心配いたしましたが、お着きになられる前には雨もやみ、無事日程を終えられました。両殿下をお迎えしてのデモンストレーション行事について、検討会議でも意見を頂き、宮島管弦祭の御座船を浮かべるとか、遣唐使船を運んくるとかいろいろありました。が、阿賀漁港の御協力により、お漁船を展示する

司会 この頃、金輪島一周レースも始まっていますねえ。寺西 金輪島一周レースはクラブ員で簡単にレースが出来るといふ事で、小さな島ですけど子供にとっては夢がある、ちょうど子供なんでやつてましたねえ。当時は夏には能美島へキャンプを兼ねて合宿に行ってたねえ。それと安芸の小富士」を小松のモニターになるという事でエンジン成功裡に終えることができました。

思い出しますのに、平成7年3月から毎月1回定例のようにして、検討会議を開催させて頂きましたが、今となっては大変懐かしくお忙しいにもかかわらず、出席して頂いた各部の責任者の方々に深く感謝いたします。

9月1日には、競技役員研修会、レンタル物品等の確認作業も始まり、いよいよ大会直前。しかし、競技部の兼田さんは、参加離受人の業務開始となり、1日から大会終了まで約2週間吳での生活となりました。

さて、9月8日、晴天のもとに開始式が行われ競技が始まりました。

ひろしま国体で、関係者並びに一般観客の方々に大変好評であった企画として、レース海面のテレビ中継があげられます。広大練習船「豊潮丸」の御協力と、報道部朝尾部長の熱意により、わかりやすい解説を入れての放映で、連日、テレビ観戦コーナーは多くの観客を集めていました。

大会終了後、関係者から、かなりの問い合わせがあり、大成功だったと思います。

また、リハーサル大会でも実施した海上輸送についても、時間が正確で、クルージング気分も楽しめる好評でした。結果が最大のサービス提供となる。本格的な大会事務所設置と事務職員の早期配置が理想であろうが、資金面で実現は至難である。

ボランティア集団でこれに対応するためには、きちんとした情報の流れを作つておく。早期に要員配置を確定し、最新の正確な情報が即座に入手出来る態勢を確立しておけば、事務所開設と事務局員配置は短期間少人数で可能であり、負担可能な費用で済むと考えられる。アジア選手権大会開催で大変な苦労をして獲得したノウハウは誰でもが利用できるよう調整してこれに資する必要があり、引き続いで遂行して行くべき業務と考えている。

（1994会報より　一部抜粋）

寺西 金輪島一周レースも始まっていますねえ。司会 この頃、金輪島一周レースも始まっていますねえ。寺西 金輪島一周レースはクラブ員で簡単にレースが出来るといふ事で、小さな島ですけど子供にとっては夢がある、ちょうど子供なんでやつてましたねえ。当時は夏には能美島へキャンプを兼ねて合宿に行ってたねえ。それと安芸の小富士」を小松のモニターになるという事でエンジン成功裡に終えることができました。

競技結果では、成年女子シーカーリングSRで地元広島県の柳川志帆選手が、オリンピックメダリストの重選手を抑えて、堂々優勝という快挙に、大いに盛り上りました。

昭和54年に進水式をやつてます。今だに現役でがんばつてますけど。仁田一也さんには「安芸の小富士」の船名を書いてもらつて、あの時は3枚書いてもらひ、そのうちから好きなのを1枚選んだら、「一番悪いのを選んだねえ。」と言われたエビソードもありましたねえ。

寺西 昭和62年にテレビ新広島さんから「ヨットに協力できることはありませんか。」という大変ありがたい申し入れを頂きました。

芸の小富士」を小松のモニターになるという事でエンジン成功裡に終えることができました。

昭和54年に進水式をやつてます。今だに現役でがんばつてますけど。仁田一也さんには「安芸の小富士」の船名を書いてもらつて、あの時は3枚書いてもらひ、そのうちから好きなのを1枚選んだら、「一番悪いのを選んだねえ。」と言われたエビソードもありましたねえ。

■1998年

（1997会報より　一部抜粋）

寺西 1998年

（財）広島県ヨット連盟 寺西 佳弘

司会 ジュニアヨットとの関わりを聞かせて下さい。

寺西 ジュニアヨットは昭和45年に宇品の県営橋付近で、ヤシママリンの浜本さんが作ったOPヨットが3隻進水したことからスタートしたんです。その後、坂のマリーナ広島で初めての帆走訓練を始めて、その年の8月15日に正式に「広島県子供ヨットクラブ」として発足してます。会長に故砂原格氏、理事長に田中敏昭さん、浜本さんが事務局をしてくれとったんよ。クラブ員も数名でこの中に庭田さんの息子さんもおつっちゃった。

司会 庭田さんこの時には、既にお世話をされてたんですね?

寺西 そう、それで足が抜けなくなってしまったんよ。

司会 呉でもジュニアヨットクラブはスタートしたのですか?

寺西 吳はねえ、昭和46年4月に「吳子供ヨットクラブ」が発足してます。三宅清兵衛さんが会長で庭田さんが事務局長。

庭田 吳に吳七(ごしち)会といつて、大之木建設、増岡組、千福、寿工業、ケロントン、中國化薬、吳信用金庫

会があって、そこで寄付してもらってヨット作つて進水式やつてねえ。造船所からクックス玉借りてきて、その中に卜入れて飛ぶかどうかって遊んだりしてねえ。私の子供もヨットに乗らんといけんと薄々感じたようで…

寺西 広島では造ったOPを本川で進水式やつてますねえ。

庭田 あの頃は、平井君や折見君が毎晩、本溪寺へ集まつて遊びよつたんだけえ。

寺西 昭和51年には、第一回全国少年少女ヨット大会を



第一回全日本少年少女ヨット大会(宮島)

（1994会報より　一部抜粋）

2004年は9月16日～20日に第31回レーザー全日本選手権大会を開催させて頂く事となりました。ぜひ、この大会を成功させたいと広島フリートメンバー一同頑張る所存です。そして当時は素晴らしい風が吹くのを祈っております。どうか皆様、アドバイス並びに御支援のほどを宜しくお願ひ致します。

(2004会報より 一部抜粋)

■ 2006年

広島フリート・デインギー＆クルーザー交流会 JSAF外洋西内海・広島フリー フリートキャブテン小林 広典

広島観音マリーナには多くのクルーとデインギーが同じ居しているにも関わらず、これといった交流を持つ場がほとんどありませんでした。大学ヨット部の学生は卒業と同時にヨットから離れる方も多く、クルーとデインギーが同じ居るのももしないから、ぜひとも体験してもらおうという趣旨で、2005年10月23日「広島フリート・デインギー＆クルー＆交流会」を開催しました。

当日参加してくれた学生さんは広島修道大学・広島大学・広島医学部から計24名。日頃からレースで活躍しているクルーと艇に分散して乗艇してもらい、各艇で簡単な練習をした後、模擬レースにチャレンジです。私の「きねきね10」にも4名乗ってもらいましたが、お世辞ではなく「さすがに体育会に属するだけあって基本的な流れが分かっている」と感心。これは是非でも永遠にヨットを続けるつもりないと、貴重な財産を貯めてしまう。

模擬とはいって、運営をお願いした県連の栗原さんも真剣で、マークとスタートラインをきっちり設置してもらい、10:40にスタート。各艇、微風に苦しみながら、抜きつ抜かれつの真剣勝負です。学生さんがヘルムする艇もあり、日頃はスナイプでスピンドルが初めての方など、結構感激的だったのではないか?

風が無くて1レースのみとなりましたが、緊張がほぐれて、質問も出てきました。「この艇は幾らくらいするんですか?」という問い合わせ、「中古だけど○○万円くらい」と答えると、異口同音に「うわっ、ベンツが、フェラーリが、買える!」…。陸上に上がると、ジュニアヨットスクールのお母さん方が焼いてくれたステーキが待ちかまえていました。カレーライスと

共に美味しくいただきました。感謝です。

レース後のビールはまた格別に旨い!そのビールのためにレースをしているという方もいるくらいで、社会人としての話を頂きとんとん拍子に事が進み、夢のような気持ちでした。

ヨットライドとは「自分の好みに応じて楽しむ」ということで、ショウ。また、私事ですが、クルーと一緒に乗るようになって、学生時代には得られなかった多くの知識と経験と面白さを知ることが出来ました。奥は深い、現在も研鑽進行形。

初めてと言うことで至らぬ点もあったかと思いますが、各大学、なればに県連の寺西さん、赤羽根さん、田村さん他多くの方のご尽力を得て、気持ちの良い交流会となりましたこと、御礼申し上げます。

ぜひ毎年開催して、ヨットに縛のある皆様に幾ばかの貢献ができるべと願っています。



（2006会報より 一部抜粋）

■ 2007年

セイラビリティ・ヒロシマ あびの会の誕生 常務理事 観音マリーナデインギヤードハーバーマスター 沖田 勇三

多くの関係者の皆様のご支援・ご援助のおかげで、セイラビリティ・ヒロシマ あびの会を立ちあげることができましたこと、感謝いたしております。

アクセスデインギーとはどんなヨットかをお教えたいたいのはNPO岡山セーリング連盟スマリを話していらっしゃる、高野洋志先生です。2006年6月に観音で試乗会をして頂きました。そして、山根会長の勧めにより、オーストラリア アデレードの国際大会に観察とレースのエントリーも兼ね8日間ほど行ってきました。

7月7日アクセスデインギー 2艇の贈呈式と進水式を行ないました。おかげで 7月から10月まで、第4週土曜日に障がい者の方のヨット教室ができました。毎回12名から15名の参加者がおり、広島大学医学部ヨット部員とボランティアの方が親切に、丁寧に指導と協力をして頂き参加して頂いた方に喜んでいただけました。

今後は、参加してくださる方を増やすと共に、ボランティアの方も一人でも多く参加して下さるよう、努力して行こうと思っています。

皆さんのご支援を切にお願い申し上げます。

（2008会報より）



■ 2012年

「ひろしまピースカップ 国際親善交流大会」を終えて

渡 貞雄

初日の夕刻からの歓迎セッションは、芝生の上で潮風に吹かれながら優雅にと考えておいましたが、突然の夕立のために急遽屋内に変更して行わされました。ボランティアの女性達の手作り料理を食べ楽しいひと時を過ごしました。

ロータリーからは会長以下約20名の方々の出席があり感謝致しております。濱崎雄司県知事代理からは歓迎の言葉と、平成22年7月に提供された障がい者が利用可能な浮き橋を活用しての今後の活動に期待するとの祝辞がありました。松井一實市長は自ら出席の上、祝辞とともに激励をされ、オーストラリアの人達を交えて暫し歓談の時間を持つました。この活動に対する期待とともに今後に向けての責任の大きさを感じた次第です。狭い場所での開催でしたが、大変有意義な歓迎セッションであった

から広島南ロータリークラブから、障がい者の皆さんためになるのなら、アクセスデインギー1艇寄贈してもいいとは?等多くの問題が出てまいりました。

さて、大会ですが実務的にはレース担当をはじめボランティアの運営に至るまでの約130名が全力を挙げて各部門を担当してくれ、大変有難く思っております。選手のエンブリーはオーストラリアの5名を加え、岡山、江の島、大阪、三重、横浜、高知、奄美大島、広島で88名でしたが、遠方からを含め多くの国内組の参加があったのは、この会に対する期待の表れと思っております。結局大会中200名以上の方が観音マリーナに集結したことになります。

大会は台風16号接近による天候が心配される中での開催でしたが、幸い大きな影響も受けず順調にスケジュールをこなすことが出来ました。レースは予選3レース、決勝2レースを戦い、横浜、三重がそれクラス別優勝、オーストラリア組を含めた入賞組には記念品が贈られました。

よい思い出になったと思います。二日間で予定されたレースは無事終了しました。

と資金集めの問題、ヨットを何処からどのように借りたらいいのか、外国からは本当に来てもらえるのか、連絡方法はどうか、など多くの問題が出てまいりました。

テイアの通訳に至るまでの約130名が全力を挙げて各部門を担当してくれ、大変有難く思っております。選手のエンブリーはオーストラリアの5名を加え、岡山、江の島、大阪、三重、横浜、高知、奄美大島、広島で88名でしたが、遠方からを含め多くの国内組の参加があったのは、この会に対する期待の表れと思っております。結局大会中200名以上の方が観音マリーナに集結したことになります。

大会は台風16号接近による天候が心配される中での開催でしたが、幸い大きな影響も受けず順調にスケジュールをこなすことが出来ました。レースは予選3レース、決勝2レースを戦い、横浜、三重がそれクラス別優勝、オーストラリア組を含めた入賞組には記念品が贈られました。

よい思い出になったと思います。二日間で予定されたレースは無事終了しました。

大会は台風16号接近による天候が心配される中での開催でしたが、幸い大きな影響も受けず順調にスケジュールをこなす

と思います。

- 三日目の観光はオーストラリア、江の島のメンバーと平和公園、宮島の観光に出かけました。宮島の鳥居の前では、ウイリアムズ・RC会員であるグレーム・ライナーさんが持参していたロータリーの旗を振りみんなで記念撮影しました。風があつてあまり暑くなく、それぞれがのんびりと楽しむひと時を過ごしたようです。台風の風はレースを邪魔することなく、観光では我々を癒してくれました。18時からのフェアウェルパーティはロータリーカラブ主催で行われましたが、当初予定されていたより来日の人数が減ったため、オーストラリアとの交歓会ということでは物足りないものの、なごやかで楽しいパーティーでした。出席して頂いた方々には感謝申し上げます。

(2013会報より 一部抜粋)

■2013年

「ひろしま海の祭典(バリアフリーまつり) 2013」を終えて

(株)ひろしま港湾管理センター マリーナカンパニー 常務取締役
ひろしま海の祭典(バリアフリーまつり)実行委員長
松岡 啓二

平成25年7月27日(土)・28日(日)に、広島観音マリーナにおいて「ひろしま海の祭典(バリアフリーまつり) 2013」を開催いたしました。28日(日)は悪天候で中止となりましたが、27日(土)は多くの方にご参加をいただき、無事終えることができました。公益財団法人広島県セーリング連盟の方々をはじめ、多くの関係団体の皆様にご協力を賜り、誠にありがとうございました。心から感謝申し上げます。

この事業は、これまでにない初めての試みですが、広島県の公教育(マリンスポーツ)の振興に寄与し、広島観音マリーナエリアを広く県民に周知し、マリンスポーツや親水体験の場として利用促進を図るために、平成24年に実行委員会を立ち上げ準備を進めてまいりました。

この事業の開催イメージとしては、

- 全国に広く知られる親水イベントとしたい
- たくさんの障がい者、健常者、ボランティアの方々が集まるイベントとしたい
- 県や市が公認し、後援や支援を頂けるイベントとしたい

● これまでの観音マリーナでの経験が生かせるイベントとしたい

- 観音マリーナでしかできないイベントとしたい
- 濑戸内海の良さと海の安全をわかってもらえるイベントとしたい
- マリンスポーツの楽しみを知り、マリンスポーツに興味を持つイベントとしたい

以上のこととイメージしながら企画を進めてまいりました。



ひろしま海の祭典2016

当初、2日間で200名の参加を目指しておりましたが、1日で218名のご参加をいたしました。予算の都合で、観音周辺の小学校10校しか案内チラシをお渡せできませんでしたが、予想以上の参加者数に驚くとともに、親水スポーツへの関心の高さをあらためて認識いたしました。参加者のアンケートでは、楽しかった体験コーナーとして1アクセスディインギー(25%) 2セーリングクルーザー(21%) 3アサトリガーカヌー(20%) 4モーターボート(13%) 5カヌー(11%) 6ボート(7%)という結果でした。ご意見としては受付の場所が分かれにくい」「告知をもっとして、このイベントを広めて欲しい」等のご指摘がありましたが、ほとんどの方が「親水スポーツに触れる機会がないので、ぜひ今後も続けて欲しい」「セーリングクルーザーに乗れたのでラッキー」「非日常的な体験ができる」とても樂しかった」「スタッフの方の笑顔が素敵でした」等の暖かいご意見が多く寄せられました。ご後援をいただきまして広島市さんからは、広島市ではこのような親水スポーツに触れる機会が少ないでの、全国大会レベルのスポーツ大会ではないが、次回は支援を検討したいとのお話を頂いております。

初めての試みではございましたが、事故なく無事終了することができ、参加者の方から暖かいご感想をいただけましたのも、ご支援、ご協力を賜りました皆様方のお陰だと深く感謝申し上げます。

■2013年

外部コーチからみた広島セーリング連盟 山本 優

2007年秋田国体の年にコーチングに当たらせていただきましたから、今年で7年目を迎えます。コーチという仕事柄、日本中のマリーナで関係者と顔を合わせますが、時々なぜ広島は強いのですか?と質問される事があります。理由を全て把握している訳ではありませんので、「たぶん、どこよりもアットホーム(家族的)だからじゃないですか」と、コーチングの際に観音マリーナを感じられる印象で答えています。

似たような雰囲気のマリーナは他にも沢山ありますが、広島は特にその印象が強くOPに乗る前の小さなお子さんからおじいちゃん、おばあちゃん世代まで、皆さん実にリラックスされ大きな家族の中にいるようです。

ご存知の通り競技としてのセーリングは海上が中心です。その海上での緊張感に対し、このマリーナの雰囲気は陸に戻ってきた選手達の心を随分と和ませているでしょう。高い疲労回復効果をもたらしていると思われます。昨年の会報の中でもOPの女子選手が「マリーナのお父さん、お母さん」という表現をしていました。広島の雰囲気を表す象徴的な言葉だと感じました。

次に広島県に关心させることは、指導陣の考え方の高さです。コーチングに拘るたびに宿舎での夕食後、指導者の皆さんと懇談の一時があります。話の内容は様々ですが、選手強化に関しては自分たちだけの価値觀に囚われず、常に新しいこと模索し、良いものを取り入れようとする意志が伝わってきます。

過去6年間、宿舎での懇談中に聞かせていただいた改善策は、年を追うごとに反映されてきています。OPの選手が地元で競技活動を続け、高校からヨットを始める選手が全国大会に多数出るようになっているのも効果の一端と思われます。最近ではハードの供給も整ってきてますので、新たな効果が表れるでしょう。

2013年ピースカップ感想 ■2013年

あびの会・2年目の活動を終えて 勝田 明子

(2013会報より 一部抜粋)



昨年、息子が小学生になったのを機に、あびの会の活動に参加させていただけております。知的障がいを持つ我が子と一緒に楽しめるスポーツと出会えて、本当に嬉しく思っています。

今年、一番嬉しかった出来事は、ピースカップ1レース目で1位を取れたことです!!翌日のレースでは順位を落としてしまいましたが、広島の練習環境は恵まれている!ということでした。今まで、これが当たり前のように思っていましたが、ハイ勢遠征にも参加させていただきました。遠征を経験して思ってるのは、広島の練習環境は恵まれている!ということでした。ハイ勢遠征には届かなくて残念でしたが、ハイパーの設備から、スタッフの皆様のバックアップ体制まで、すべて最高のものが揃っていることに気付きました。改めて感謝の気持ちでいっぱいになりました。ありがとうございます。

これからも、よろしくお願ひいたします。
す。どちらかにほんの小さな不具合があったとしても、そちらに気を取られ正しいセーリングは出来なくなります。それらを即時解消しうる環境があることは奇跡的なことです。唯一の弱点は「強風の苦手意識」かもしれないが、これも広島の地理を考えれば、短時間で日本海側にも太平洋側にもアクセスする事ができることがついている関係者もおられるでしょう。広島には競技者が上達できない理由はありません。

課題は運営スタッフの確保です。5海面をカバーする方法

は日本を5区画に分け、1区画ごとで1海面を受け持つま

す。我々の広島県は大阪、兵庫、和歌山、奈良の関西チー

ムに加え四国4県、中国5県で構成されるチームです。(この

チームで大会を運営します。艇種はLaser, LaserRadial

を受け持ります。オフィシャルには英語が使われますので語

学力が必要です。こう書いてしまうと、英語は苦手だし、2

～3週間も休みが取れない…となるでしょう。当然この条

件を満たせる方はそれほど居ません。私もそうです。

今、JSAFが考えているのは期間中メンバーをリーチして行

く方法です。そうすれば各人の負担は軽くなります。しかし

それと同時に多くのメンバーにオリンピックを運営する高い

スキルも要求されます。

今後、国内ではテストイベントが多く予定されています。これ

らへスタッフを多く派遣し経験を積むことが必要となってきま

す。当然、今後広島で開催されるレースでも2020年のレー

スを意識したワールドスタンダードな形式の運営を行ってい

く予定です。

ここまで問題点ばかり書いてきましたが、我々に於いてオリン

ピックは格別なもので。56年ぶりですから、次の大会が見

られるかどうか…セーリングもオリンピックから外れるかもし

れない…そうなると何としても東京オリンピックを成功させ

て、日の丸が一番高い場所へ上がるところを、この目で見

てみたい。そう切に思っていたでした。

そこへ広島の選手が表彰台に立つていればこの上ない幸

せでしょう。その日が来ることを夢見て、まずは大会の成功

へ向け尽力していきたいと思います。広島の皆様も一鼓団

結「東京で『広島魂』を見せてやろう」ではありませんか。皆

様のご協力をよろしくお願いします。

(災い転じて福となる)

競技委員会委員長 大原 博實

今から14年前の2004年は、例年になく10個の台風が日本

本に上陸した年でした。

それに加えて新潟・福井豪雨、福島豪雨などの気象災

害、また浅間山噴火、紀伊半島南東沖地震、新潟中越地

震などが続き、その年の漢字に「災」が選ばれる年となっ

ています。

そうした中、広島県内は9月6日から7日にかけて台風18号の襲来を受け、風速60.2m/secの強風(広島気象台観測)と高潮のため嚴島神社の左奥房が倒壊するなど、沿岸部のいたる所で波浪と高潮による被害が発生し、観音マリーナのバラベット護岸も足元をすくわれ一夜にして倒壊してしまい、バースに置いてあったディンギーの殆どが高波に流され、クルーザーヤード沿いのフェンス際に無残に打ち寄せられており、数日後に控えた全日本レーザー選手権大会の準備のためハーバーを訪れたと同時に海上が広がるという修羅たる光景に唖然としたのを記憶しています。

に打ち寄せられており、数日後に控えた全日本レーザー選手権大会の準備のためハーバーを訪れたと同時に海上が広がるという修羅たる光景に唖然としたのを記憶しています。

のように堤防の上まで容易に登ることができる構造になり、堤防上には幅約5mほどのスペースが設けられたために、眼前で展開されるレースを観戦するには最高のスペースが確保されました。

今年、全日本OPチームレース選手権は第18回を迎えるが、目前で展開されるレースに護岸上に張られたテントの中から、多くの関係者がフェンスに身を乗り出して声援を送るという光景が毎年続けれられており、まさに観せ

るレースのために最高の条件を備えたハーバーといつても過言ではないと思います。

昨年行われたビースカップにおいても観せるレースを意識しコースを設定しましたが、今年10月12日から18日に観音マリーナで開催されるハンガ世界選手権大会では、今まで以上に観せるレースを意識し、コース設定やレーススケジュールを考えていきます。また、選手を含めボランティア、主催者、協賛各社、官公署、地元など全ての関係者がハッピーと感じる大会としていきたいと思います。

(2018年会報より 一部抜粋)

■2018年

2018年を振り返って

広島セーリングスクール 前田 海陽

2018年はレーザーで始まり、レーザードで終わった幸せな、そして懐み多き一年でした。4.7級で参加した1月のオーストラリア選手権では強風を経験し、2月の江の島ミッドウイングではアジアセーリングチャンピオンシップ、そしてアジア大会の日本代表に選出されました。セーリングが難しくなつてきて、悩んだのもこの頃です。毎週のように変わる体型にセーリング技術が追いつきませんでした。「身長が伸びると重心が高くなるから乗り方も変えないといけない」とわかついても不器用な私はうまく合わせられません。OP級でも同じ経験をしましたが、身長と体重の変化に対応するのは本当に難しいです。その後、江の島での練習会や合宿にも参加して、少しずつセーリングが安定していき、5月

の唐津JOCでは世界選手権の出場枠を獲得しました。6月インドネシア・ジャカルタで開催されたアジアセーリングチャンピオンシップ4位、7月ボーランド世界選手権78位/275艇、8月にはヤカルタ開催アジア大会5位と大きな

レースが続きました。悩んでばかりでしたが、今、考えると

ヨット漬けのしあわせな時間でした。

アジア大会終了後、4.7クラスを卒業、国体を目指して本格的にラジアルクラスに乗り換えましたが、福井国体まで一ヶ月しかなく気持ちばかりが焦っていました。その反面、大きなレースが繰りていたこともあり、手にティマーの感覚が残るほどレーザーに乗っていたので、うまく合わせられる気もしました。

ヨット漬けのしあわせな時間でした。

アジア大会終了後、4.7クラスを卒業、国体を目指して本格的にラジアルクラスに乗り換えましたが、福井国体まで一ヶ月しかなく気持ちばかりが焦っていました。その反面、大きなレースが繰りていたこともあり、手にティマーの感覚が残るほどレーザーに乗っていたので、うまく合わせられる気もしました。

ヨット漬けのしあわせな時間でした。



(2019年会報より 一部抜粋)

幸いにしてレーザー選手権参加者の多くは県外からの自

艇持込の参加者であり、9月16日から20日の大会は、平井さんを中心とするレーザー広島フリートメンバーの必死の努力もあり、何とか開催にこぎつけ成功裏に開催することができました。

しかししながら、災い転じて福となるではありませんが、翌年に災害復旧工事が完成し、以前の切り立った護岸は、今

普及活動

多くの方々にヨットの楽しさ、素晴らしい体験していただくためにさまざまな活動をおこなってきました。子どもから大人の方まで、近年では障がいの方にも、気軽にヨットや海を体験していただいています。

■ 2015年6月のヨット交歓会＆クルージング体験

- 大人も参加できるヨット教室
 - セイラビリティ・ヒロシマ あびの会の活動 「ヨット教室」
 - 吳セーリング連盟の活動
 - ハンザヨットの体験、大型ヨットセーリング体験、シーカヤック操船体験、親子海洋教室「海の子クラブ」(ほか)
 - 福山セーリング連盟の活動 わくわくヨット教室(ほか)



■ 2016年5月の体験教室

少し教わったら、ご覧の通り
もう一人で乗れちゃいます。

■ 2016年7月の体験教室

ボートで瀬戸内海を快走。とっても気持ちいい。



■ 2016年7月小学校でのヨット体験教室

海へ出て先輩たちに教えられながらOP試乗会。

まずは親子そろってヨットのことを少し勉強します。

体験力終わるとこんな
楽しみも待っています。



■ 2016年8月の体験教室&交歓会

ヨット体験教室をおこないました

いつもの馴染んだプールなので、子どもたちも安心して体験できます。



一般の方にとってヒールは
迫力がある半面、少し怖さも…。

この中からやがてセーラーが育ってくれることを願って……。

■ 2017年5月の体験教室

お父さん、お母さんといっしょに海で遊びます。
とっても素敵な親子のコミュニケーション。



ハンサにも挑戦。初めての人でも安定してセイリングできます。

■ 2017年7月の体験会



さあ、これから海へ!わくわくします。
最後は海水浴で海に慣れ、海に親しみます。



子どもたちはいつも元気。初対面の子どもたちもすぐ仲良しになります。

■ 2019年5月の ジュニアヨット 体験教室



最初は不安もありますが、元気に海へ。

■ 2019年の70周年記念事業



SAIL HIROSHIMA(5月25・26日)



フローバー様体験会(6月1日)



コハクハウス様体験会(6月16日)



OP級進水式(6月23日)



ヤマネボールデイングス様体験会(7月1・5日)



アカブカあびの会(7月1・5日)



ひろしまピースカップ(9月21・22日)



ひろしまテクノス様体験会(10月22日)



創立70周年記念事業

(公財)広島県セーリング連盟

SINCE 1949

先輩ジュニアが同乗し
安心して体験できます。

福山地区の歴史と現況

福山セーリング連盟 理事長 濱田 浩司

今年で54回目となる仙酔島一周ヨットレースから逆算すれば1965年には既にこの地区で広く活動していたことがうかがえる。昔からこの地区にはヨット部のある高校大学がほとんど存在せず、唯一広大ヨット部が仙酔島に艇庫を置きそこでの試乗会がヨットを始めたきっかけとなった人もいたが手探りでセーリングを始めたセーラーも多い。

ヨットを自作する人も多いのがこの地区的特徴である。石井早美氏は自ら建造したK16クラスを高速道路のない時代に江の島まで牽引し、兄の石井正人氏とともに1972年から1974年まで三年連続で同クラスのチャンピオンとなった。その後石井氏は石井レーシングヨットを立ち上げ、瀬来健治氏設計の404クラスを三十数艇、スナイプクラスを二十数艇造うち数艇は福山ヨットクラブの艇庫に現存し今なお活躍している。その他この地区には自作されたオリジナルのデザインやクルーザーが多く存在する。

1972年ごろ、地域や会社のヨットクラブを取りまとめて福山ヨット連盟(現在の福山セーリング連盟)が発足、この地区的活動の主体となってい。デインギー・マクルーザーの垣根のない組織であり競技と普及活動が同連盟の主な事業となる。デインギーによる競技は、小室浜艇庫をベースとしてTOMO・デインギー・ガナ、福山市長杯ヨットレース、および仙酔島一周ヨットレースの三本を、またクルーザーによる競技は鯛網ヨットレース、ぬしまカップヨットレースの二本を開催しており、それぞれ毎回多くの艇が参加している。いずれも初心者も参加しやすい敷居の低いレースを目指しており、誰でも楽しめるよう心掛けているので遠慮なく参加していただきたい。普段活動は毎年6月に一般公募した小学生を対象に『わくわくヨット教室』(公財)福山スポーツ協会とともに実施している。

この地区でも高齢化によりセーラーは減少傾向にあるが、最近になり新たに加わる若い人や二世セーラーが目立つようになり今後の発展が期待される。



わくわくヨット教室



福山セーリング連盟facebookへ
アクセスしてください。
活動の詳細がご覧いただけます。

Memorial Graph

2018 ハンザクテスワールド&インターナショナルチャンピオンシップ 広島大会

70年の航跡

公益財団法人 広島県セーリング連盟



小室浜艇庫

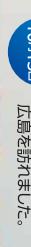
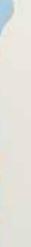
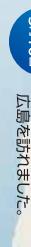
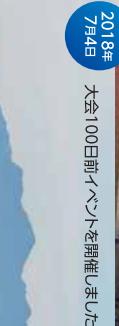
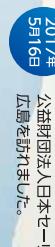
2018 ハンザクラスワールド&インターナショナルチャンピオンシップ広島大会

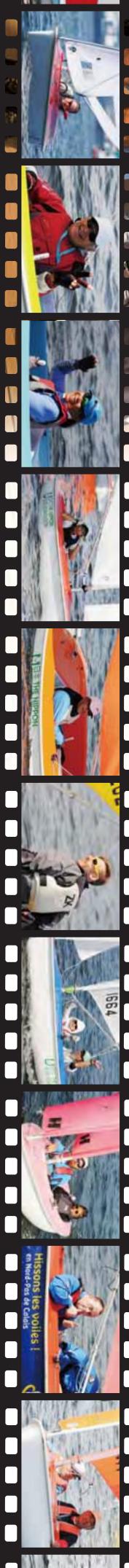
Memorial Graph

アジアで初開催となるハンザクラスワールド広島大会。

世界20か国から約200人の障がい者・選手のみなさんが参加。

瀬戸内海の大陽と風と波につつまれて真剣勝負の果てに笑顔の交流の花が咲きそろいました。





2018 ハンザクラスワールド&インターナショナル チャンピオンシップ in 広島 2018年10月12日～18日

命輝け！

島々の海で、世界がひとつに。



hansa class world

Hiroshima Japan 2018



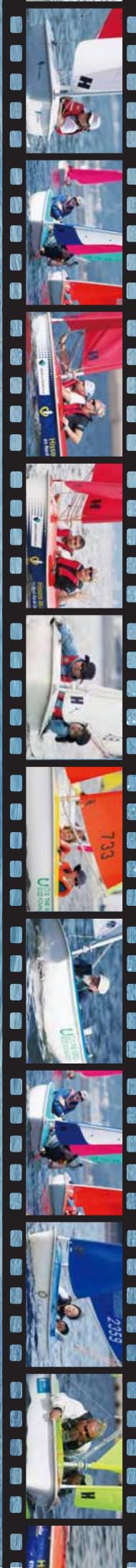
咲き誇れ、笑顔!

たくさんの夢、たくさんの絆、広島から輝く未来へ。

ミッド・ウイーク・パーティー (10月16H)

表彰式&閉会式 (10月18H)

2018 ハンサクラスワールド&ベターナショナルチャンピオンシップ広島大会



時に、関係者から反省点を出してもらったんです。それが何十という項目が出て来ましたね。

沖田：それで少し危機感が出てきましたね。

土田：これじゃあいんと、2018年3月に正式に組織ができあがった。

司会：組織ができてからは割と順調だったんですか？

井川：いえいえ、それぞれの役割が明確になった分、いつも大変だったと思います(笑)。

小寺：わたしは施設関係が担当でしたけど、さつき救助艇が遺産として残ったという話がありましたけど、施設としてこの觀音マリーナもそうですね。当初、身障者トイレは仮設で行こうということでスタートしました。

土田：障がいの方方が多く集まるスポーツ大会、ともなると、イマドキ行政も放ってはおけないみたいで…

小寺：施設に入るスロープや防波堤の上に上がるためのスロープも、全部広島県が整備されました。

沖田：確かにハーサル大会に湯崎知事も来られて、こんなトイレでは世界に対して恥ずかしい、ということもあったんだと思います。

小寺：とにかく画面確認するたびに、しっかりと施設に化けていくわけです。結果的に立派な施設になつてよかったです。みんながだんだんと本気になっていくのを感じました。機運が徐々に盛り上がったんですね。私の担当範囲で言つても、とにかく打ち合わせをするたびに施設もレセプションも立派なものに変化していくわけです。当初のホームパーティ程度のレセプションが、オリンピックでもやるのか、といぐら立派になっていった。そんな準備期間でしたね。

沖田：招待者も、大臣が来る、となると代議士も、知事も、市長もという調子。そうなると主な企業も立派が来る、そんな動きでしたから。

栗原：ただ、今回やつて気付いたのは、お金だけじゃダメということ、大切なのは人なんだ。わたしたちもア

う。彼らはいろんなところでそういう経験を積み重ねてきているからできるんだと思う。

のにしていたんです。それが参加者に知られるところとなって、問い合わせました。「なんで分けるんか」と。

栗原：ただ、そういうことがあったから、われわれも理解でなっています。

土田：心配事がいくつかあったなかで、ひとつは船の輸送の問題でした。マツダグループの物流会社さんがコンテナで無料で輸送してくれたりね。

栗原：輸送担当のわたしにはとても助かりました。ただ、問題がなかったわけではありません。コンテナの会社が「帰りは勘弁してくれ」と言つてます。船に積めるものの安全基準があるんですけど、わざとではないんでしょうが、それに違反するものを積んでいたことがわかりました。帰りはこらえてくれと…。最後はわれわれのほうで一つひとつチェックするから、と頼み込んでなんとか運んでもらうことができました。

構えすぎで過敏になりました。

井川：そうですね。今回は障がい者の人たちの大会なんですけど、障がいのある人も健常者も同じようにエンターできるんですね。最初は「なんじゃ、そりや、ってところはありました」。まだ僕らもよくわかっていないかった。

藤田：間違って理解してたところもありました。僕もね、去年の3月にハンザのオーストラリア選手権に行つたんですね。選手として参加して22艇中5位だったんです。選手として上位4人の内3人が障がいのある人だけなんですね。その時はじめて知られました。

小寺：そこが過敏になりすぎたところかもしれないですね。構えすぎで。

沖田：向こうの人は、足が悪いけど手が動くのは、手が動かない人を助けるんですね。チーム内でそういう連携が取れています。

小寺：そこが過敏になりすぎたところかもしれないですね。構えすぎで。

藤田：そういうことを経験して、インクルーシブとか共生社会とかそれまで言葉では何度となく聞いてきたものが、経験してわかつきましたね。

司会：そのことがわかつたとき、大会への道筋に影響はないなかったですか？

沖田：あれは大会の3日前かな。われわれは健常者用と重度の障がいの方へ差し上げる「賞」を違うも



小寺：わたしは選手の宿泊やその送迎などを担当しました。広島市内何か所かに分かれて泊ってるんですね。その方々はハーバーまでお連れして、また送り返すわけですね。それを毎日やりました。健常者の場合だったたら「さあ集まれよ」の一言で済むんですけどね、障がい者の場合、車いすもあれば電動の人もいる、いろんな方々が何か所にも分かれて宿泊してるんです。その全般的段取りをしたんです。今思い出すだけでも頭痛くなるくらいやべい状態だったんですけど、頭の体操にはほんまでしたね(笑)。くたびれました。

栗原：今回、他の国の選手を見て彼らが国際大会の場慣れをしてるなと思ったのは、最初は介護タグリー手配して、送り迎えするんですね。それに彼らは慣れてきたらバスで帰るんですよ。言葉の壁とかあるかもわからないけど、ある程度放つといても自分でやっちゃ

司会：具体的にはどういうことがあつたんですか？

栗原：宿泊といえば、でかいホテルを押さえ、そこに全部入

れ込めば、お互い笑なんですけど、なかには安いところへという人もいるわけです。そしてその人は、実際に安価なホテルの障がい者ルームを予約したんです。ところが、そのホテルでは障がい者を泊めた経験がない。その後、ホントから呼び出されて、行ってみるとベッドの高さが合わないというんです。本人は備え付けの本をベッドの足に入れたみたいでうまくいかない。

「責任者と話がしたい」ということになったみたいです。結局、事務局の方で高さが合うマットレスを買つたりしたんです。そんなこともありました。

小寺：ホントの意味でハイアフターになってないんですね。

栗原：ほかにもありとあらゆるトラブルがありました。送迎も、事務局が推薦するホテルだけ立ち寄ることにしてたんですけど、結果、民宿やビジネスホテルに泊まる人が多くて、最後には全部回ってあげようということになりました。広島中の介護タクシーを集め、運送計画作るんですけど、どうしても予算オーバー。計画の練り直し、その繰り返しで、毎晩3時くらいまでやってましたね。

小寺：本来公共交通で運べないといけないけど、路面電車でも乗れない電車もあり、バスも未対応のバスもあるし、運転手さんもあまり慣れていない。都市機能としての課題はありますね。

井川：広島は国際都市で急激にハイバウンドのお客さんを増やしていますけど、車いすの方とかあまり見ないですよね。われわれ自身も、そういうことに慣れていないんです。

ハンザがあるからできたこと。

司会：結局参加されたのは何か国だったんですか？

土田：24か国ですね。目標は20でした。実はそこが最初の問題点でした。

藤田：市にも県にも「20か国集めます」と言って予算を組んでもらってるんですね。集めなくちゃいけない。

沖田：最終的に24か国ですから。なんか目標クリアね…。

藤田：みなさんがおもてなしのところでは多く話がありましたが、広報担当だったわたしとしては、いかに多く広島市民に観戦に来ていたかということです。総務と広報関係、あとボランティアとかを担当しましたが、広電さんはバスも電車もポスターを貼ってもらったり、メディアにも多く取り上げてもらったり紹

介してもらいました。そういう意味では、一般の方が新しいぶんたくさん観音に乗ってきたべきでした。初めて海を見たはじめてヨットを見た。そんな場になりましめたね。それはとてもうれしかったですね。防波堤に上がれば、目の前でスタート、目の前でフィニッシュするように設定してもらったのもよかったです。

土田：なにより天気が良かったのが一番。

沖田：それまで毎週毎週台風が来てね。

藤田：大成功だったよね。

司会：これから、というのはどうお考えですか？

沖田：ひとつは、大会をきっかけに施設が良くなつたですよ。それを有効に使っていくのが一つの使命だと思うんです。

藤田：ここでも、もう一度基本に返るのも必要かも。それわれは「どうしようか」と思つてたんですね。そんな中でハンザをやるようになって障がい者の人が来るようになつた。これまで競技する人しかここには来てなかった。ヨットって敷居が高いというイメージがあると思う。でも、そつではないよというアピールをこれからはしていかないとね。

栗原：今回、ヨットのOBやヨットから離れてた人が久しぶりに顔出して来たりしたんですね。「久しぶりだね」って。これからも、こういう仕掛けみたいなイベントがあるといふてもよく聞いてくれました。そういう部分でも日本の社会は意識が高いなあと。

司会：大会から約1年がたちましたが…。

沖田：10月に終わって、11月にはヘルペスがでましてね。

1か月目ぐらいにね、頭はガンガンするし、疲れが出たんですね?山根会長が言い過ぎたんか(笑)。

耳が痛いから耳鼻科いったら、何もないヒトで、脳神経外科の病院に行つたんです。3日間点滴してもらいましたよ。

司会：事程左様にたいへんだった？

沖田：僕と同じように一ヶ月目に顔面神経痛が出た人もいます。江ノ島さんがやんのなら広島でやりましょうって言ったのがそもそもその道の誤りだった(笑)。



ら「競技やった」というだけで終わってたかもしれない。施設の面だけでも障がい者の方が来るというだけで、観音マリーナの施設がガラッと変わりましたね。それはとてもうれしかったですね。防波堤に上がれば、目の前でスタート、目の前でフィニッシュするように設定してもらったのもよかったです。

土田：それだけで毎週毎週台風が来てね。

藤田：大学とか高校のOB戦をね。8チーム出てね。

井川：あれはよかったです。

沖田：これまで毎週毎週台風が来てね。

藤田：大学とか高校のOB戦をね。8チーム出てね。

井川：これで、今度は、今度は、今度は…。

土田：2、3年前に卒業した連中から70過ぎの人まで集まつてね。初めての人に集めるのも大切なことです。足が遠のいてるOBを集めるのも大切なことです。そこから話が広がるから。



いいなと思いますね。

沖田：例えばここをインクルーシブのセーリングセンターとかにできればと思います。広く多くの皆さんを利用できる施設、人を呼ぶ施設に育てていかないかとね。

藤田：大学とか高校のOB戦をね。8チーム出てね。

井川：この前もハンザを30艇くらい出してレースしたんです。

沖田：それはよかったです。

井川：実は、今回の大会で日本財團からハンザ70艇を寄せました。

土田：2、3年前に卒業した連中から70過ぎの人まで集まつてね。初めての人に集めるのも大切なことです。足が遠のいてるOBを集めるのも大切なことです。そこから話が広がるから。

Topics

誰でも楽しめる小型ヨット、ハンザ

ヨットの中でも小型の1～2人乗りのものを「デインギー」と呼びますが、これは誰もが簡単に乗れるものではありません。そこで、オーストラリアのクリス・ミッセル氏が「誰でも乗れるよう」と考案したのがハンザです。実際に子どもから高齢者の方、障がいの方も難しい練習などをせずに簡単に帆を操って船を走らせる事ができます。

2001年4月には日本初のセイラビリティが設立され、国内のハンザの普及がスタート、社会福祉として大変有意義な活動になっております。また、広島県では、2018年10月に世界24か国の選手らを招いてハンザクラスワールド大会を開催しました。



ハンザの乗り方

乗船者は、ハンザの安定した低い位置に座るので、とても操縦しやすく安定性に優れています。また、ナイロンの帶組で作られているハンモックのようないすに座り、センター・ボーディングの両サイドに足を投げ出してもできます。なお、ソケットに差し込まれたマストは、リーフドラムが取り付けられていますので、砂浜の上に乗り上げておくときは簡単にセールを巻くことができます。

ぜひ、あなたも「ハンザ」を体験してみませんか？
練習会、試乗会をおこなっています。お気軽にご参加ください。

70年の航跡

公益財団法人 広島県セーリング連盟

Vision

創立80周年に向けた中期ビジョン

公益財団法人 広島県セーリング連盟
専務理事 井川 史朗

公益財団法人広島県セーリング連盟が創立70周年を迎えることができました。最初に、これまで会員の皆様をはじめ多くの方々のご支援ご協力を頂き連盟の活動を支えていただきましたことに、心から厚く感謝申し上げます。これまで、本連盟では諸先輩の方の努力により連盟の活動を盛り上げ、セーリングや地域の発展につなげてきました。この活動を時代の変化に合わせながら、少しでも発展させて次の世代につなげていくことが我々の使命であると考えております。特に昨年度はハーバクラスマッチを開催しました。この大会には世界各国から多くの選手/サポーター/観客が来場されました。会場の雰囲気は、この大会で我々が目指してきた「障がいの有無にかかわらず、相互に人格と個性を尊重し合いながら、共生する社会」を大いに感じる大会となりました。また、この大会には、これまでにない多くの団体/企業様にご賛同頂き、ご支援を頂くと共に、運営役員やボランティアなど大変多くの方にご協力頂きました。今後はこの大会の成功をステップとして、連盟活動を通して、スポーツや地域、社会の発展につなげていきたいと考えております。ビジョンは最終形ではなく、これを元に次の事業の在り方を関係者皆さんと共に考え、修正していくものと考えています。ぜひ皆様のご意見をお寄せください。



80周年に向けた中期ビジョン

広島県セーリング連盟は、2018年にハンザワールドを開催し、新しい発展の道を進もうとしています。今後、この大会を契機にさらなる発展を目指す上で、元となる中期ビジョンを作成します。

1. 方向性

中期ビジョンは我々連盟の目的の実現に向けたものでなければならないと考えます。

(目的)

この法人は、子供から高齢者、障がい者や健常者、初心者からトップアスリートまで、すべての県民のセーリングスポーツ・レクリエーション活動の普及と発展に関する事業を行い、自然と人を大切にする心を育成し、健康で生きがいのある明るい共生社会の発展に貢献することを目的とする。

(活動理念)

..海という自然を、こよなく愛する人々の集まりである。
..ネットを通じて、人々に幸福をもたらす集まりである。
..会員諸氏が、互いに切磋琢磨していく集まりである。

2. ビジョン

ハンザワールドを通週点として、インフルーシップなセーリングスポーツ・レクリエーションを実現する環境を実現していきます。インフルーシップ(共生)とは、老若男女/障がい/スキル/目的など、色々な違いを超えて、お互いに違いを理解し、尊重し合うこと考えます。大きく次の3つの分野を考えています。

(2) 既存の取組みを発展させながら、将来のビジョン達成につなげていきます。

1. 体験教室・スクール、あびの会、育成強化、競技、総務の活動
2. 2020オリンピック、2021パラワールドをはじめとした、国際大会成功へ向けた支援を続けます。

3. 研究テーマ

今後、新しい活動として、次のような事業について、研究していきます。

- 市民が気軽にセーリングに親しみ体験できる拠点
- 国内でもトップレベルの障がい者セーリングセンター
- 地域でセーリングを楽しむことができる拠点

4. 活動方針

(1) これまでの活動で築いて来た連盟活動への支援に加え、ハンザワールドの成功を通して新しく得られた、支援・協力の輪を広げ環境整備を進めていきます。

1. 支援体制の充実

インフルーシップ社会の意義やセーリングの価値をアピールし、支援の輪を広げ、大会後も継続的な協力体制を構築していきます。

2. 環境整備

ユーバーサルで安心・安全な研修スペースや艇庫などの施設整備や活動に必要な艇の整備を進めていきます。
3. ソフト面
障がい者スポーツの運営ノウハウを研究し蓄積していくと共に、セーリングの運営・育成強化のレベルを向上させていきます。

(3) 既存の取組みを発展させながら、将来のビジョン達成につなげていきます。

1. 体験教室・スクール、あびの会、育成強化、競技、総務の活動
2. 2020オリンピック、2021パラワールドをはじめとした、国際大会成功へ向けた支援を続けます。

5. 研究テーマ

- 体験会の拡充
修学旅行、学校行事(小中高、特別支援、医療系)、各種団体(企業など)のレクリエーション活動
- セーリングセンターの活動
国内障がい者セーリングの中心としての活動誘致

Reference



セーリング・シミュレーター開発秘話

1986年、開発者のノーマン・R・サウンダー・ス氏がロンドンからサウス・ハンプトンへ引っ越しした時、元海軍大佐と知り合ったことにより、傷ついた兵士のリハビリ等を通して、開発へのアイデアを構思しました。1992年にオーストラリアへ移住してから本格的に開発を始め、2007年頃には艇体部分が現在の形に完成。ソフトウエアはその後も進化を続けており、現在は3Dゴーグルに対応したプログラムも開発中で、立体的に、よりリアルに感じられるよう開発が進められているそうです。

Topics

イベントなどで大活躍!人気急上昇のハンザを体験できる「レッド・ハンザ1号」

公益財団法人広島スポーツ文化財団が、スポーツ文化の発展や地域社会の活性化に寄与する事業に対して助成をおこなう第1回助成事業(2017年として、当連盟の「セーリング・シミュレーター」の導入が採用されました。これは、海に出ることなく、ハンザの疑似体験ができるもので、観音マリーナ・ディンギヤードに設置、「レッド・ハンザ1号」と命名されました。「海には興味あるけど、いきなり海上に出るのは抵抗がある」などといったとき、まずは「レッド・ハンザ1号」でハンザの操作をそのまま体験できます。すでにセーリング体験会やさまざまなイベントで活躍しています。

70年の航跡

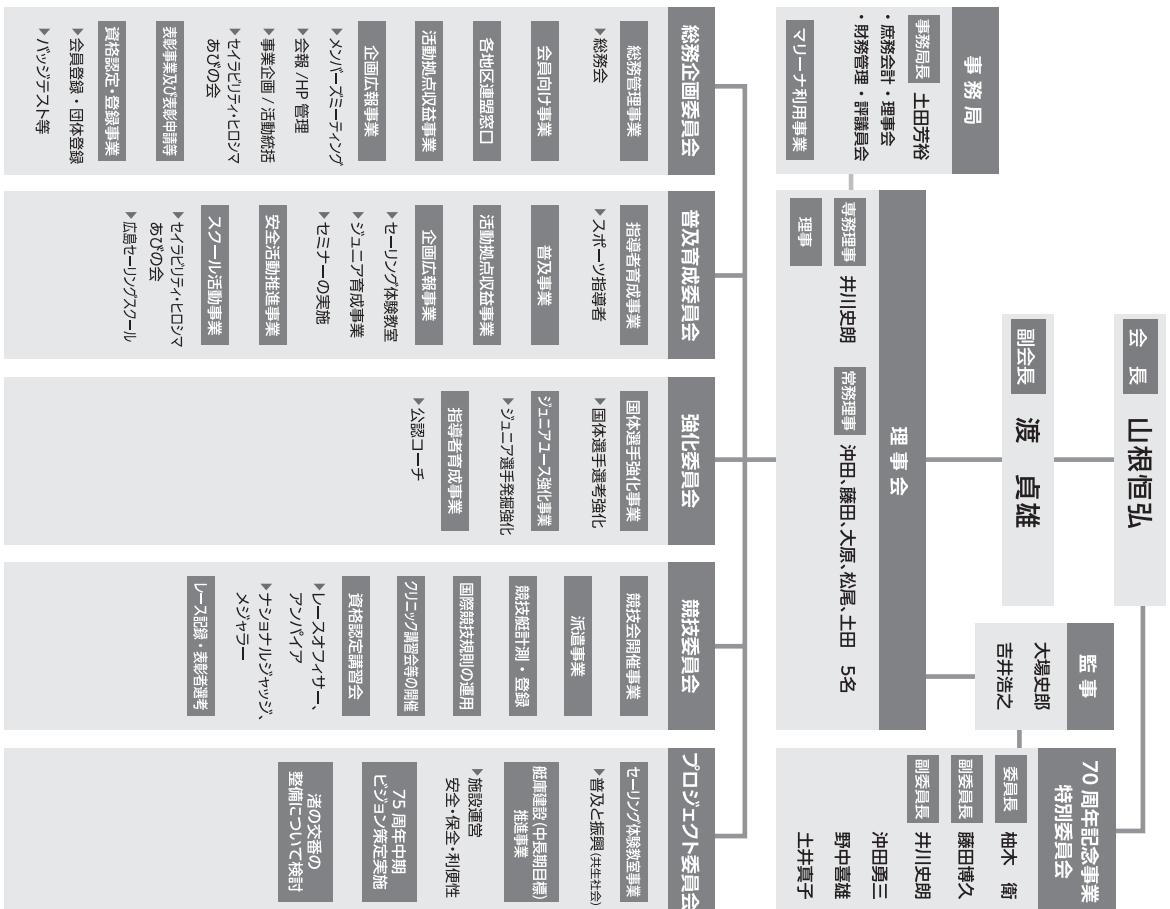
公益財団法人 広島県セーリング連盟

資料編



組織圖

2019年3月



県連所有救助艇一覧

県運所有救助艇一覧						
①	安芸の小富士Ⅱ	長さ		エンジン		長さ 30f
		7.99m	定員	90hp	航行区域	
②	ブレジャーモーターボート	12人	泊海			
③	れもん	長さ 5.6m	エンジン 70hp	長さ 19f	備考	
④	ブレジャーモーターボート	定員 5人	航行区域 泊海	備考 夜間航行		
⑤	アビアイヤ	長さ 4.12m	エンジン 50hp	長さ 17f		
⑥	あび3	定員 3.65m	航行区域 30hp	長さ 14f	備考	
⑦	あび4	用途 定員 救助艇	航行区域 5人	航行区域 平水	備考 夜間航行	
⑧	ペルーガ	長さ 5.18m	エンジン 40hp	長さ 15f		
⑨	オルカ	用途 定員 救助艇	航行区域 7人	エンジン 40hp	長さ 17f	備考
⑩	マーリン	長さ 4.46m	エンジン 航行区域 6人	エンジン 40hp	長さ 15f	備考
	万葉丸	用途 定員 救助艇	長さ 4.89m	エンジン 20hp	長さ 19f	
	トビウオⅡ	用途 定員 指揮艇兼救助艇	長さ 2.99m	エンジン 9.9hp	長さ 10f	

役員

顧問	岡畑 煙 佐 三 野 北 島 松 王 松 山 濑 赤 羽 根 川 田 尾 田 原 田 尾 田 岩 崎 菅 田 井 菅 田 賀 野 濑 場 井 大 吉
鐵健讓吉文立泰勝祥照慶恒眞史勇博英芳一哲信正博眞加裕倫尚尚史浩郎之	也治顕三雄夫吉元明士光潔仁弘雄朗三實久樹裕郎郎三幸志子勉之代美
参与	//
長長理事	//
会副務理事	//
常務理事	//
事理	//
事理	//
監事	//

評議員

小林広典	外洋西内海広島フリート
金子勝義	吳セーリング連盟
村瀬保文	(一社)尾道海技学院
土屋敦通	広島大学体育会ヨット部OB
安永裕司	広島大学医学部ヨット部OB
森田晃司	三菱重工広島OB会
丸川義則	マツダ親和会OB会
平井基博	レーザー広島フリート
濱田浩司	福山セーリング連盟
定盛谷善久	因島ヨットクラブ
中崎一篤之	広島大学ヨット部しぶき会
高垣一勇	近畿大学工学部ヨット部OB
宮安部賢二	広島工業大学ヨット部OB
柳本仁	広島修道大学ヨット部OB
柳本仁	三菱重工製作所
柳本仁	広島工業大学ヨット部OB会
柳本仁	力帆会(近畿大学工学部OB会)
柳本仁	夕凪会(吳宮原高校ヨット部OB会)
柳本仁	福山市役所ヨット部
柳本仁	セイラビリティー広島
柳本仁	マツダ株式会社
後藤森雅	安芸南高等学校ヨット部
岩城貴治	国泰寺高等学校ヨット部
岩城貴治	山陽高等学校ヨット部
岩城貴治	広島セーリングスクール
岩城貴治	広島セーリングスクール
岩城貴治	広島セーリングスクール
岩城貴治	マツダ親和会

定款

改訂(平成30年6月)

公益財団法人 広島県セーリング連盟

(事業年度) 第7条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(事業計画及び収支予算) 第8条 この法人の事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類は、毎事業年度開始の日の前日までに会長が作成し、理事会が決議する。これを変更する場合も同様とする。

2 前項の書類については、主たる事務所に、当該事業年度が終了するまでの間置き、一般的の閲覧に供するものとする。

(名称) 第1章 総則

第1条 この法人は、公益財団法人広島県セーリング連盟と称する。

(事務所) 第2条 この法人は、主たる事務所を広島市に置く。

第2章 目的及び事業

(目的)

この法人は、子供から高齢者、障がい者や健常者、初心者からトップアスリートまですべての県民のセーリングスポーツによる明るい共生社会の発展に貢献することを目的とする。

(事業)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するために次の事業を行う

- (1) 県民が気軽にセーリングスポーツに親しむことができる機会の提供とその環境を作る
- (2) 地域におけるセーリングスポーツ・レクリエーション活動の普及と振興
- (3) 障がい者のセーリングスポーツ・レクリエーション活動の普及と振興
- (4) セーリングスポーツに関する講習会、体験教室、実施、海上安全活動及び思想の普及と振興
- (5) セーリング競技の国内大会や国際大会への選手・指導者の派遣、および選手・指導者の養成・強化
- (6) セーリングスポーツを通じて、国際交流の推進と関係団体との相互連携
- (7) セーリングスポーツと健康に関する調査研究事業
- (8) その他のこの法人の目的を達成するために必要な事業
- (9) 前項の事業は、広島県において行うものとする。

(その他の事業)

第5条 この法人は、前条第1項各号の掲げる事業の推進に資するため、次の事業を行う。

- (1) 自助販売機による事業
- (2) その他公益目的事業の推進に資する事業

第3章 財産及び会計

(財産の種別)

- 第6条 この法人の財産は、基本財産及びその他の財産の2種類とする。
- 2 この法人の目的である事業を行うために不可欠な財産は、この法人の基本財産とする。
- 3 その他の財産は、基本財産以外の財産とする。
- 4 基本財産は、理事会において別に定めるところにより、第3条の目的を達成するために善良な管理者の注意をもって管理しなければならない。
- 5 基本財産の一部を処分しようとするときは、あらかじめ理事会及び評議員会の承認を得なければならない。
- 6 公益認定を受けた日以後に寄附を受けた財産(又は交付を受けた補助金その他の財産)については、その半額以上を第4条の公益目的事業に使用するものとし、その取扱いについては、理事会の決議により別に定める寄附金等取扱規程による。

第4章 会員及び賛助会員

(会員)

第11条 次の各号のいずれかに該当するものは、団体会員及び一般会員となることができる。

団体会員(セーリングスポーツに関する地域、学校、クラブ等の団体をいう。)
一般会員(セーリングスポーツ競技に関する競技者、競技役員、指導者等の個人をいう。)

2 会員について必要な事項は、理事会の決議を経て、別に定める。

(賛助会員)
第12条 この法人に賛助会員を置くことができる。

2 賛助会員について必要な事項は、理事会の決議を経て、別に定める。

第5章 評議員

(評議員の定数)

第13条 この法人に評議員20人以上30人以内を置く。

(評議員の選任及び解任)

- 第4条 評議員の選任及び解任は、評議員会において行う。
- 2 評議員の選任する場合には、次の各号の要件をいずれも満たさなければならぬ。
各評議員について、次のアからCに該当する評議員の合計数が評議員の総数の3分の1をこえないものであること。
ア 当該評議員及びその配偶者又は3親等内の親族
イ 当該評議員と婚姻の届出をしていないが事实上婚姻関係と同様の事情にある者
ウ 当該評議員の使用者
オ ウ又はエに掲げる者以外の者であって、当該評議員から受ける金銭その他の財産によって生計を維持している者
カ 他の同一の団体(公益法人を除く。)の次のアからエに該当する評議員の合計数が評議員の総数の3分の1をこえないものであること。
ア 理事

第32条 理事会は次の職務を行ふ。
(1) この法人の業務執行の決定
(2) 理事の職務の執行の監督
(3) 会長、副会長、専務理事及び常務理事の選定又は解職

(種類及び開催)
第33条 定時理事会及び臨時理事会とする。
2 定時理事会は、毎事業年度ごとに4ヶ月を超える間隔で2回以上開催する。
3 臨時理事会は、必要がある場合に開催する。

(招集)

第34条 理事会は、会長が招集する。
2 会長が欠けたとき又は会長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。
(議長)
第35条 理事会の議長は、会長がこれに当たる。

(決議)

第36条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。
2 前項の規定にかかわらず、一般社団法人及び一般財團法人に関する法律第197条において準用する同法96条の要件を満たしたときは、理事会の決議があつたものとみなす。

(議事録)

第37条 理事会の議事については、決令で定めるところにより議事録を作成する。
2 出席した会長及び監事は、前項の議事録に記名押印するものとする。

第9章 名誉会長、名誉顧問、顧問及び参与

(名誉会長、名誉顧問、顧問及び参与)

第38条 この法人に名誉会長、顧問及び参与を置くことができる。
2 名誉会長は、評議員会の決議をもって推戴する。
3 顧問は、会長が委嘱する。
4 顧問は、会長の諮詢に応ずるものとする。
5 参与は、評議員会の推薦した者を会長が委嘱する。
6 参与は、評議員会の諮詢に応ずるものとする。

(報酬等)

第39条 名誉会長、顧問及び参与は無報酬とする。
2 名誉会長、顧問及び参与に対しては、その職務を行うために必要となる費用の支払いをすることができる。
3 前2項に規定する事項に関し必要な事項は、評議員会の決議を経て、会長が定める。

第10章 専門委員会

(専門委員会)

第40条 この法人は、理事会の決議を経て、専門委員会を置くことができる。
2 専門委員会は、理事会の決議に基づき、第4条各号及び第5条各号に掲げる事業について計画、調査、研究等を行う。
3 専門委員会に関する規定は、理事会の決議を経て、会長がこれを定める。

(報酬等)

第39条 名誉会長、顧問及び参与は無報酬とする。
2 名誉会長、顧問及び参与に対しては、その職務を行うために必要となる費用の支払いをすることができる。
3 前2項に規定する事項に関し必要な事項は、評議員会の決議を経て、会長が定める。

第11章 事務局

(設置)

第41条 この法人の事務を処理させるために、事務局を設置する。
2 事務局に、事務局長及び所要の職員を置く。
3 前項の職員は、会長がこれを任免する。
事務局の組織及び管理に関する事項は、会長が定める。

第12章 定款の変更及び解散

(定款の変更)
第42条 この定款は、評議員会の決議によって変更することができる。

2 前項の規定は、この定款の第3条、第4条及び第12条についても適用する。

(解散)

第43条 この法人は、基本財産の減失によるこの法人の目的である事業の成功の不能その他法令で定められた事由によって解散する。

(公益認定の取り消し等に伴う贈与)

第44条 この法人が公益認定の取消しを受けた場合又は合併により法人が消滅する場合(その権利義務を承継する法人が公益法人であるときを除く。)には、評議員会の決議を経て、公益目的取得財産残額に相当する額の財産を当該公益認定の取り消しの日又は当該合併の日から1箇月以内に、公益社団法人及び公益財團法人の認定等に関する法律第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

(残余財産の帰属)

第45条 この法人が清算をする場合において有する残余財産は、評議員会の決議を経て、公益社団法人及び公益財團法人の認定等に関する法律第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

(公示の方法)

第46条 この法人の公告は、電子公告により行う。
2 事故その他やむを得ない事由によって前項の電子公告をすることができない場合は、官報に掲載する方法による。

第13章 公告の方法

(委任)

第47条 この定款に定めるもののほか、この法人の運営に関する必要な事項は、理事会の決議を経て、会長が別に定める。

附則

1 この定款は、一般社団法人及び一般財團法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財團法人の認定等に関する法律の施行に伴う關係法律の整備等に関する法律(平成18年法律第50号。以下「整備法」という。)第106条第1項に定める公益法人の設立の登記の日から施行する。

(2)

2 整備法第106条第1項に定める特例民法法人の解散の登記及び公益法人の設立の登記を行ったときは、第7条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を事業年度の末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。

3 この法人の最初の役員及び評議員は、次に掲げる者とする。

(1)

役員

会 長 山根恒弘
副 会 長 岩田行史 渡 貞雄
専務理 事 赤羽根慶仁
常務理 事 谷口正浩 沖田勇三 丸川義則 大原博実 藤田博久
理 事 小玉淳一 渡田裕司 平井基博 檜皮浩二 土田芳裕 石井田秀則 田村賛二 盛谷謙之
監 事 高橋邦夫 朝尾謙博 大場史郎

(2)

評議員 小林広典 定成善久 渡邊博之 森田晃司 村瀬保文 大久保忠 新延浩二 小曾正幸 松尾英樹
中嶋 雅士 壱屋敦通 平賀裕之 高垣一之 吾西 勇 山内 崇 若城明博 大野祐二郎 黒田則雄
弓場弘道 吉井浩之 柳本孝仁 石川英義 藤井 健 田中慎一 西野倫代

4 この定款は平成30年6月28日付にて一部改訂施行する。

公益財団法人 広島県セーリング連盟創立70周年記念誌[70年の航跡]

発行日 2019(令和元)年11月23日

発行所 公益財団法人 広島県セーリング連盟

〒733-0036 広島県広島市西区鏡音新町4丁目14-6 広島鏡音マリーナデインギヤード内

